

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

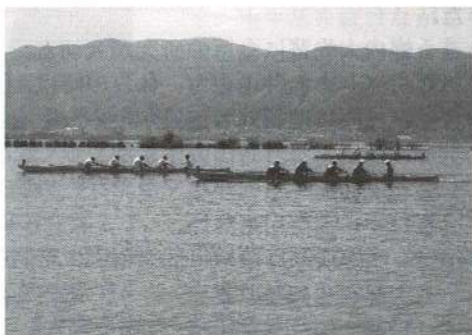
第33号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水1-10-1 編集：会報編集委員会 第74回生(昭和43年入学)

理想の花の咲かむまで —ひとすじの道をゆく—

2007年、団塊の世代の大量退職が始まり、日本社会が大きく変るといわれる年。74回生の編集委員17名は、特集のテーマとして、今生きている人たちの肉声で、団塊の世代の先輩にも、現役世代にも、そして在校生にも元気を与えてくれる「生き方」をとりあげたいと考えた。

もとは、62回生の木川俊文さんとの会話が発端だった。企業戦士としての生き方を変えてくれたのが、海外勤務の折ゆったりと水上散策を楽しむアメリカの人々を見たことだという。あんな人生を送りたいと、諏訪へ帰って早速62回生の仲間と素人集団でボート練習を開始。毎週の練習は厳冬でも欠かさないという。輝かしい戦歴にも圧倒される。諏訪の地域活動の改革にも情熱を注ぎ、上諏訪地区のブロック統一では中心の一人として、千万人魂を遺憾なく発揮しておられる。

女性層から男の人はいいわねと言われかねないが、なんと奥様も水泳熱が嵩じ、この3月にはパラオヘダイビングに行ってきたというから驚きだ。



ボート練習風景(62回生・木川俊文氏)

さて、テーマは決まったものの、知られていない人に光を当てるのが趣旨であり、探すのがなんとも大変であった。功成り名遂げて誰もが知っているその道の大家、押しも押されもしない第一人者、賞を受けた人、であれば楽なのだが、有名ではないものの、ひとすじの道をひたむきに歩む

人、ユニークで元気な生き方を実践している人、夢を実現した仕事に就いた人、といった難しい条件である。

特集の18人は、多くの人は同窓会名簿の職歴等を頼りに、第六感で探した人たちである。

「有名でない人」に、とお願ひしたものの、実はその道で

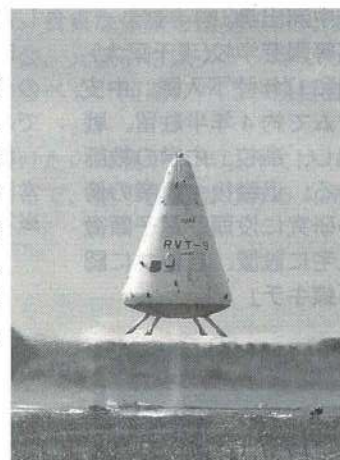
は全国的に有名な方だったりして、まさに冷汗三斗であった。

原稿が届き始めてみると、多くの方が依頼した字数を大幅に超えていた。皆人生の大先達であり、500字では書き切れるはずがなかった。気迫の文章を削るのは、身を切るような辛い作業であった。快く承諾していただいた寄稿者の皆さんと、眠っていた国語力を駆使して編集作業に携わった編集委員諸氏に、深くお礼を申しあげたい。

そんな訳で、手間だけは大変にかかってしまった。皆様にお届けできる日が来て、心からほっとしている。繰り広げられた多彩な人生は、必ず皆様の心に何か残るものがあるものと信じる。



チエーホフ作「三姉妹」の舞台より
(58回生・内山善一氏)



打ち上げられた再使用ロケット実験機
(74回生・成尾芳博氏)

平成19年度

一、日時 平成19年6月30日(土)午後1時30分より

一、場所 諏訪市湖岸通り「ホテル紅や」

一、議事 ①平成18年度会務・会計報告
②平成19年度事業計画・予算案審議
③その他

一、講演会 午後3時より

演題「お金が消える日

—くらしを変える魔法のカード—

講師 岩本 敏男 (74回生)

(株)NTTデータ取締役常務執行役員

諏訪清陵高校同窓会会長 林 尚孝(当番幹事74回生、次年度当番幹事75回生、サブ幹事84回生・94回生)

定期総会案内

一、懇親会 午後5時より

会場 ホテル紅や 会費 5,000円

オープニング 清陵OBスペシャルジャズバンド

アトラクション みんなで歌おう わが青春時代

高校時代口ずさんだ愛唱歌を歌いましょう。

前売りチケットは当番学年・同窓会事務局・各支部事務局・学年幹事にて取り扱い中。当日受付にても可。

当番学年／高木健治 0266-27-5754

同窓会事務局 0266-58-0356



【プロフィール】

明治45年四賀神戸に生まれる。諏訪中、長野師範卒業後、教職を勤める。退職後、諏訪市文化財審議委員など、多くの役職を務める。LCVで、長く「みちくさ先生」として、多くの人々に諏訪の自然を紹介した。

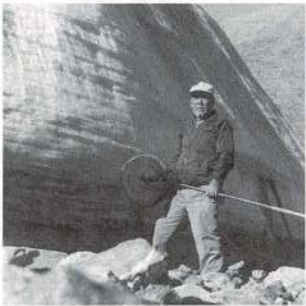
『趣味の人生』 茅野 慶次 (31回生)

私は、明治45年四賀に生まれ、7歳で父を失い、母の手一つで育った。諏訪中を卒業し長師を受験したが身体検査で不合格、自宅で農作業を手伝った。草取がイヤでたまらず、草の名を知ることを慰めに耐えたが、これが一生を通しての趣味の基となった。

次年合格した師範を卒業後、46年間教職を勤めた。昭和30年諏訪教育会自然研究部の委員となり、36年には諏訪湖の「水平虹」が水面の微細な露による事を発見した。

退職後は農業転職者相談員、婦人少年室相談員など臨時的な役を仰せつかった。公民館、老人大学などで、身近な野菜を解説。霧ヶ峰ビジターセンター設立委員となった縁から、霧ヶ峰の案内など年に十数回頼まれた。岡谷市史の自然解説、茅野市史別巻自然編、八ヶ岳総合博物館の設立などにも係わり、「諏訪と飛田広」「赤彦を助けアララギに盡した高木今衛」など埋もれた人の顕彰も新聞投稿などで心がけた。

平成になって、身近な野菜、諏訪地方の巨木など、LCVで解説、撮影を行った。晩年まで長く続いたのは、「みちくさ会」という野草に親しむ会、「香蘭短歌会」など。こんな事で気ままにやっているうちに95歳となり、気がついたら同級生の大部分は、先に逝ってしまった。



【プロフィール】

諏訪市中洲出身。
千葉高等園芸学校(現千葉大)卒。昭和17年陸軍入隊。中支、ベトナムで約4年半駐留。戦後帰還し、高校、中学の教師を勤める。退職後、農業の傍ら蝶の研究に没頭。電子顕微鏡を自宅に設置、自他共に認める「蝶キチ」。

『蝶を探して世界巡り』 原 雅幸 (39回生)

ここ数年、花畑などで蝶の飛んでいる姿を余り見かけない。農業のためか以前のように物凄い数の乱舞はない。環境の変化の生態に及ぼす悪影響は大きい。

75年も昔、木曾の荻原小学校の4年生だったある休みの日、私は道で吸水中のアゲハチョウ位の大きさの奇麗な蝶を帽子で採った。蝶に詳しい担任の戸部先生は大吃驚され「これはなあ、アサギマダラといってとっても珍しい蝶だぞ」と言われた。私は、この時から蝶と共に生きる人生へと歩み出した。

諏訪中のとき、北沢右三さんと言う蝶の大先輩に食草の研究が大切と、植物で有名な川村清一博士のいる千葉大を勧められた。ベトナム駐屯中も、休みの時はよく採集に出たりした。帰国後学校勤務となってからは、休みには国内の何処かでネットを振っていた。

昭和30年頃から外国産の蝶にも興味が湧き、世界各国の生息地を歩くこと57回。最遠地の北極エズミア島、南極キングジョージ島、ネパールヒマラヤなどの旅、更にタヒチ島での新種タヒチシジミの新発見等は忘れることが出来ない。

標本の約25000頭は諏訪市博物館へ、5000頭は原村自然文化園に寄贈し、その一部は常設展示されている。

※写真は「北極エズミア島で」



【プロフィール】

東京薬科大学卒業(薬剤師)。元日本天文学会会員。清陵高校天文気象部OB。諏訪市在住。

『清水ヶ丘に太陽を追って』

—各年・累年の観測を整理して56年— 牛山 充正 (51回生)

太陽活動は約11年周期で増減している。故三澤勝衛先生の14年間に亘る日本で初めての太陽黒点の連続観測記録(非常に高度な観測研究になっている)は、当時京大花山天文台長の故山本博士により毎月「花山ブレテン」の英文で内外の研究機関に送付され貴重な足跡を残した。その眼視観測は素晴らしく、故古畑(後東京天文台長)さんがハーバード大学へ留学したおり絶賛を浴びたほど。且つ三澤のスケッチはカメラより凄いと云われていた。

その三澤先生の観測を継承すべく1950年2月17日、私が中心になり清水ヶ丘で太陽黒点観測を開始した。以後現在までの50数年間、毎年の観測整理、累年の統計整理を行い、日本天文学会(現国立天文台内)、及び東亜天文学会太陽課、他各重要な観測機関へ報告をしてきた。スイス、チューリッヒ天文台の世界の中央局(現在ベルギーのブリュッセルで集計処理)をはじめとして、各研究機関に知れ渡っている。研究レポートは全て自費出版で現在12報目を発刊し、その返礼、激励の手紙はスクラップノート2冊に及ぶ。三澤先生の観測期間14年と合わせ、70年の歴史を有するのは全国の高校でも清陵だけである。



【プロフィール】

関西合唱団常任指揮者。
日本のうたごえ合唱団音楽監督。指揮を井上頼豊、外山雄三の両氏から学ぶ。
著書は『合唱へのいざない』（新日本出版社）、『みんなでうたおう』（本郷出版社、共著）など。

『たくさんの夢を持ち実現してきた』 守屋 博之 (52回生)

私は旧制諏訪中学に入ったが、学制改革のため中学が清陵高校になったので、6年間同じ学校に通ったことになる。その中・高生活のほとんどを、音楽部で合唱を、家に帰ってからも混声合唱団や諏訪交響楽団での音楽活動ですごした。音楽では食えないからと大学は音楽とは関係ない道に進んだのに、やはり音楽三昧の毎日をすごしてしまい、卒業と同時に関西合唱団の常任指揮者となった。関西合唱団は、音楽の源泉は人々の生活や日々の願いのなかにあるという理念をもつ、うたごえ運動の合唱団である。そして、いつの間にか50年の月日が過ぎ、この5月20日に、関西合唱団は私の指揮生活50年を記念するコンサートをNHK大阪ホールで開くことになっている。

ふり返ってみると、いたるところに音楽をする場をつくり育てること、ベートーベンの第九などをうたう市民運動をひろげること、みんなの手で歌劇をつくり上演すること、最近では憲法九条を守る音楽家の会をつくること、など、たくさんの夢を持ち実現してきたというのが実感である。

もう73歳だからときどき息切れもするが、年々増えるばかりの合唱の指揮や客演指揮、講習会での講師などは、気力と体力の続く限りがんばりたいと思っている。



【プロフィール】

山梨大学工学部卒、東京通信工業(現ソニー)入社、トランジスター時代の先駆けを築く。定年退職後、老母の介護で千葉県船橋から諏訪まで毎週通う。その間シニアの生き方の啓蒙活動を実践。『大衆長寿時代の老い方』等、著書多数。

『大衆長寿時代の老い方～道一歩き方・人さまざま』

河西 和彦 (52回生)

在学当時の校風の質実剛健勤勉努力が、定年退職後の今も身に染み付いている。退職後は熟年世代を励ましたいと思い、「熟年モチベーター」なる肩書きを自分で作った。手始めに親の介護に挑戦したら、母も元気で100歳の天寿を全うするまで続いた。故郷に一人住む母親を励ましつつ、船橋から13年半も遠距離介護を弟の助けを借りて続けた。

二重生活を続けながらも、いろいろな処で「老い」の勉強をした。ユニークな生き方に興味を持たれて、お茶大や早大の老年学講座の一部を担当したこともある。シニアの生きがいは、①健康、②自立、③社会参加であることを知った。③の社会参加は社会貢献となり、更に次世代への継承にと移行することを肌で学んだので、貴重な体験を団塊の世代はじめ若い世代に伝えるべく工夫を凝らし、現在シニア社会学会、元気に百歳クラブ等でも活躍中である。諏訪の方言で言えば「ズクのある人間」となるべく、同期の仲間の双樹会のメンバーと頑張っている。

旧制中学1年から新制高校1年まで最下級生を4年続けたのは我が学年以外にはなく、貴重な体験と修練であった。このような環境で育ったことで、粘り強く活力ある人間形成が出来たものと確信している。



【プロフィール】

諏訪市末広にて出生。
東北大学理学部化学科卒。
静岡大学(工学部)教授就任。
83年退官。縁あって望月町布施(現在 佐久市布施)に移住。
有機農業農家として現在に至る。「もちづき憲法9条を守る会」代表。

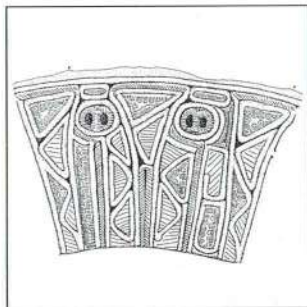
『健康長寿150歳を目指す』 大木 昭八郎 (56回生)

大学教授から有機農業農家に転身したことで随分と奇異な眼で見られました。好きでなかった研究・教育の道でしたが、自然や環境との関わりに無頓着な知識体系で押し進められる科学技術の現状に嫌気がさしてしまったのです。

農家生活20年余、まわりの農家の様子も見えてきました。昔から「百姓は生かさず殺さず」と言われていました。今の日本の豊かな食生活を支えているのは、割に合わないながらそこから抜けられず頑張っている農家のおかげだと身をもって知りました。

現在1.5haの畑でキャベツ、セロリ、ジャガイモ、大根、カボチャ、タマネギ、スイートコーン等々30種類以上の野菜を、15aの田で米をつくっています。多品目をつくるのは消費者との契約の関係からですが、無農薬、無化学肥料の有機農業は連作できないので多品目づくりは必然でもあります。農薬、化学肥料の慣行農業に比べ大変ですが、良い農産物を求めればこの道しかありません。

農業の傍ら、前から勉強していたヨガ、指圧、操体法などの健康法を町の人たちに教え、各地のマラソン大会に参加しています。健康の秘訣はご飯をよく噛んで食べることです。一口200回噛んでいます。150歳を目指す健康長寿がライフワークです。趣味は社交ダンス、碁、謡曲。



【プロフィール】

昭和30年3月本校卒。

茅野市宮川茅野にて梅印刷を経営し今日に至る。

茅野市文化財審議委員、八ヶ岳総合博物館協議会委員長、尖石縄文考古館建設委員、茅野市郷土研究会代表理事を歴任。現在諏訪神事研究会長。



【プロフィール】

上諏訪出身。

法政大学日本文学科卒。職業・俳優（芸名・内山森彦）。昨秋「鶴八鶴次郎」を諏訪でも上演し好評を得た。テレビ等映像への出演や、近年は海外での公演も多い。



【プロフィール】

昭和31年清陵卒。

セイコーエプソン(株)を経て(財)サイトウ・キネン財団へ。かたわら長野県交響楽団連盟理事長、諏訪交響楽団会長、北欧音楽祭すわ実行委員長等を務める。

『縄文文様解説一路』 武居 幸重 (57回生)

齢71。男児3人共に母校卒業、大学を出す資を自営印刷業で賄った他は金と時間を縄文文様解説他に充てた。筆者がこの道に手を染めた当時参考文献など皆無であった。全くの未開拓分野に踏み込むには、ある種の勇氣が必要である。千野光茂校長と小平恒彦先生からの個人的な指導が、解説の方法論の策定に役立った。昭和20年代には、縄文文様は装飾であるというのが日本の考古学界の常識であった。縄文時代の土器文様で写実的な文様は極めて少なく、殆どが抽象文様である。従って文様のモデルをつきとめるのに苦労した。

結論をいうと、縄文文様は祈りの絵文字であり、霊の表現である。研究は1970年から、初論文『先土器時代の崩壊に関する諸問題』（1974）は、本邦でのこの分野での嚆矢である。単行本『縄文のデザイン』『縄文心象』を出版し、本年八月国宝『棚畑の土偶』発行の予定。当時考古学界の主流が狭い意味での研究であったが為に、残念ながら無視され続けたが、幸い日本で初めての縄文時代全期にわたっての文様解説の業績に対して1996年第5回相沢忠洋賞受賞の榮に浴した。縄文人の精神構造を写した縄文曼陀羅天井画を完成させることが、今後のライフワークである。

※図の説明

「縄文心象」より、畑と畑の守護神ヘビ

周りは畑であり、畑のまん中にヘビが2匹正面を向いている。

ヘビは野鼠を捕獲するため畑の守護神である。

『いい事』 内山 善一 (58回生)

小中学校を通して学芸会へ出た事も無かったのに、1年生の清陵祭でいきなり「どん底」の舞台に立たされた。それがそもそもの切っ掛けかもしれない。将来俳優になるなどとは毛ほども思っていなかったが、大学四年の秋、ひょんな事からNHK俳優養成所に入り、同所卒業と同時に仲間と劇団を創って演劇の道へ進み始めた。劇団は13年で空中分解したが俳優業をやめはしなかった。

子供の頃、ひとつの事をあきらめずに続けているといつかきつと「いい事」があると言われた事があった。それが心の隅にこびりついてたのか、役者稼業で47年、取り立てて「いい事」も無かったなァと思っていた。しかし翻って考えてみると、幾度も壁にぶつかり挫けそうになりながらも、とにかくこの歳まで続けてこられたその事こそが、その「いい事」ではなかったかと今ではしみじみ思っている。勿論、己一人で培って来たわけではない、多くの人達に支えられての事だけれど。

もうひとつ、子供の頃に言われた事がある。毎日朝晩キッチンと歯を磨くと金歯になるというのだ。あの時分金歯はステータスだと思っていたのだ。とうとう金歯にはならなかったが今でも何とか歯は丈夫さを保っている。

※写真はチェーホフ作「桜の園」より（役名：ガーエフ 右はラネーフスカヤ役の旺なつき）

『思いは何時も清陵生』

武井 勇二 (59回生)

私は当年69歳。仕事はサイトウ・キネン・フェスティバル松本総合コーディネーターで、指揮者の小澤征爾さんと松本で音楽祭をやっております。清陵時代にやっていた仲間同士での人間形成行動と何ら変わっておりません。

卒業後セイコーエプソンに入社し中村恒也さんという天才的技術者と出会いました。仕事も大事だが精神文化も大事と諏訪交響楽団に入団し、64年に小澤征爾と出会いました。私は直感的に中村さんと小澤さんとで何時か人間を感動させる大きな仕事をする事になるのではと予感しました。小澤さんは恩師齊藤秀雄門下でオーケストラをつくれれば世界的なものになるのではと発想し、私に支援を要請してきました。私は社長になっていた中村さんに懇願し支援が実現しました。3年間の欧米遠征で力をつけたオーケストラは、92年から松本でオペラを含む音楽祭を始めました。小澤さんからこの音楽祭の中心となってやってくれと頼まれ、その深みにはまり今も続けています。

清陵で身につけた基本精神に、中村、小澤両氏との出会いが絡み合って交流拡大、感動を呼ぶ音楽を世界に発信することになり、これが結果として私のライフワークになりました。成果の上限はありませんが理想の花の咲かんまで。思いは何時も清陵生です。



【プロフィール】

原村出身。千葉市在住。
囲碁サロン「かまくら」主宰。
日本棋院南千葉支部長。
日本棋院普及指導員。
ホームページ：「囲碁サロン
かまくら」
<http://www1.cnc.jp/igo/>

『良い趣味は老後を助く』

鎌倉 眞文 (60回生)

清陵出てから50年、現在私が楽しんでいる囲碁のお薦めと近況報告をさせていただきます。囲碁は四千年の歴史があり、これに勝る面白いものは無いと言われています。囲碁は、誰でもできます。碁を打つ人のほとんどが、「もっと早く始めておけば良かった」と言います。ボケ防止に最適。右脳を鍛える。新しい友達ができる等と。皆さんよかったら始めてみませんか。

「負けました。」と私。「かまじいに勝ったよ」と幼稚園児。13年前から相方が始めた囲碁サロン「かまくら」に子供が来るようになってから6年。かまくら学園(子供教室の総称)の風景です。私は、子供達からは、先生ではなく「かまじい」と呼ばれています。もっぱら、苦勞して子供に教えている相方のお手伝いをして楽しんでいます。かまくら学園は、最初は子供ばかりでしたが、この頃は高齢者の方も子供と一緒に楽しんでいます。強くなった子は、プロの指導碁を受けています。院生(プロの卵)13人も、プロと月1回研究会をやっています。又、楽しみたい人は、友達と騒ぎながら一生懸命練習しています。囲碁の事でしたら是非応援させてください。また清陵囲碁OB会なんかできたら良いなーと思っています。

※写真は学園の講師がタイトル新人王をとった時にお祝いをしたものの。筆者は前列左端。



【プロフィール】

諏訪市生まれ。
諏訪清陵高校を経て、諏訪
赤十字看護専門学校卒業。
諏訪赤十字病院定年退職。
現在、NPO法人「グリーン
・トープ」理事

『こころを病む人々とともに』

小尾 嘉子 (61回生)

清陵高校を卒業して半世紀近くが過ぎようとしています。

入学当時女子生徒は3人、いろいろと御迷惑をかけましたが、生物部で霧ヶ峰に連れて行っていただいたこと、教室でのことなど懐かしく思い出されます。

看護学校を出て諏訪日赤病院で定年退職まで看護の仕事が続け、その間、2年先輩の湯沢千尋先生のお誘いで精神科病棟の担当となり、以来精神を病む患者さんとの関わり合いを持つこととなりました。病気の性質上治療や社会復帰の難しさなどを抱えながらも、旧日赤病院の屋上売店、園芸作業等、患者さんと一緒に取り組み、少しずつですが成果を実感しました。

平成15年4月、日赤病院、諏訪市、看護協会、同窓生など多くの皆さんの協力をいただき、精神障害者と市民の交流施設NPO法人「グリーン・トープ」を設立することができました。諏訪市文化センター入り口にある食事の出来るカフェの運営、中央公園でのハーブ園、竹炭造りなどなど、決して財政は豊かな組織でないけれどメンバー「患者さん」の拠り所になっています。

今、メンバーさんとお茶を飲んだり、ハーブ園で土いじりしながら日々を楽しく過ごしています。



【プロフィール】

学習院大学政経学部政治学科
卒。
東洋バルブ(株)勤務。
米国RED-WHITE VALVE勤務
(1981から5年半駐在)。
取締役営業本部長(2003年4
月退職)。

『「元気老人？」一生懸命遊ぶ』

木川 俊文 (62回生)

団塊世代のリタイア。私の場合、決断の時は突然襲ってきた。還暦の直後に右目が網膜剥離、7回の手術を経て退任。激務から解放されたが、結局視力は回復せず諏訪に帰った。

アメリカ駐在中に刺激を受けた「一生懸命遊ぶ」人生を携えて帰ってきた私を、同期の友人が沢山いて受け入れてくれた。代表的なのが、今「漕陵会62」のボートの仲間で毎年春には信毎と愛知レガッタ、秋には下諏訪レガッタと5年も出場。去年は「ねんりんピック静岡2006」(60歳以上の国体?)に県代表で出場、心に残る大会であった。今年は、7月23日から4泊5日、「漕陵会62・63」の15名程で小口太郎の琵琶湖周航の歌に因み、フィックス艇で琵琶湖周航を計画している。

2002年から「違う人生を歩んだ仲間の話を聞こう」と始めた「辰巳勉強会」は16回を数え、毎回40名程の仲間が集まり、講演と懇親会を楽しんでいる。

我が家では、87歳の母を介護しながらも「夫婦の人生も大切に、日々チョット背伸びをし、無理しない程度にがんばる」がモットー。民生児童委員の傍ら、原生果樹園作り、山歩き、旅行にゴルフとなんでもやるが、中でもヒットは家内と始めた水泳で、64歳で始め、今では多くの「ババ友」と年間10万mを目標に泳いでいる。

※写真は、「ねんりんピック」練習時のもの。筆者は後列右端。



【プロフィール】

1940年東京生まれ。
諏訪清陵高校卒。
信越放送在職中より“地域に根ざした番組づくり”がモットー。定年後、游話舎代表として游話舎サロンを軸に、多岐にわたる学びや朗読活動を展開。22年目のラジオ「かるいさわいろ」も続行中。

『万緑やゆらりと動く投網打ち』 岩崎 信子 (62回生)

2000年6月、定年退職の翌日游話舎を立ち上げた。有限会社とは名ばかりの“総務から掃除まで”のワンマン社長である。準備には仲間たちが駆けつけてくれた。夫・功の法律事務所2階空室、煤けた壁も皆で塗り替え、卓球台に藍木綿の布を掛けるとレトロ調のやさしい空間となった。60回を超える「游話舎サロン」をメインに「話」を主軸とした多岐にわたる集い、講座などを開き、加齢者が生き生きと活動できる学び舎として根づきつつある。

思えば昭和34年、18歳でアナウンサーとしてスタートして以来、最後まで放送番組の創り手として現場にあったことは幸であった。殊に希望が叶って小さなローカル局上田放送局に移ってからの20年余りは、ワンマンスタジオを一人駆使しながら、濃く人と結びあい協働した地域密着のラジオ番組づくりの中で玉のような出会いを戴いた。〈地方には輝きを持って生きている人々がなんと多いことか〉その手応えと愉しさが次なる再発信へとつながった。

できあいの「思想」や権威に与みしない、金力に頼らない「個」として生きる道程には、清陵の〈千万人と雖も吾往かむ〉の精神が文弱な私にも受け継がれているのだろうか。



【プロフィール】

昭和35年卒業。
昭和37年、岡谷市役所入所。
建設部、水道部、開発部、生活環境部に勤務。
平成14年、定年退職。定年退職後、諏訪東京理科大学入学、18年3月卒業。

『理想の花の咲かむまで』 竹本 正行 (63回生)

平成14年岡谷市役所を定年退職した私は、諏訪東京理科大学に入学した。環境と経済の関係の知識を深めるための入学であった。教官にも恵まれ、考えていた基礎的な知識を勉強し、多くの問題点を発掘することもできた。また、自分の子供のような若い学生との交流から若いパワーや新しい考えなどを吸収できた。学生のための就職の相談やレポートや卒論の相談など、担当の教官とは違った角度からのアドバイスもでき、楽しくも充実したキャンパスライフであった。

定年を5年ぐらい前から意識していた私は、その後何をやりたいか、何ができるのかを考えたとき最後に残ったキーワードは「環境」であった。今までのような組織への帰属意識を捨て、それまでのしがらみから抜け出たいという思いもあった。大学生活はこの二つを同時に可能にした。卒業して1年間の休養をとった今、環境省より環境カウンセラーの認定もされているので、大学での知識と経験の上に立った環境ボランティア活動のようなものを考え、社会に恩返しの意味で地域の皆さんとともに研究や実践活動をして行きたいと考えている。平均寿命まで生きたとしても残りの時間はそう多くない。残りの時間をより充実したものになりたいと思っている。



【プロフィール】

東京女子大学・文学部心理学科卒業。
子ども相談室「モモの部屋」主宰。東京都内保健所・心理相談員。NHKラジオ『子どもの心相談』アドバイザー。著書『子育てはなぞとき』『幼い子のくらしとこころ』ほか。

『想いを語る場をつくる』 内田 良子 (64回生)

清陵を出てから既に40年余、来し方を振り返るほどの多くの時間が過ぎて行きました。

私が高校に入学した年は女性が9人、1クラスにつき2人でした。男ばかりの集団は見ると聞くもの珍しく、毎日何が起こるかワクワクする日々でした。いたずら(ゴタ)の天才が何人かいて、尽きない知恵の泉から、次々と愉快ないたずらを展開していました。

この見聞がその後、ライフワークとなった「子どもの心理相談」で大変役に立ちました。民間病院の心理室で27年間、登校拒否、不登校、非行などおとなが心配する「問題行動」について、子どもの立場に立ち子どもの視線で考えてきました。実に多種多様な悩みごと、心配ごとが持ちこまれましたが、清陵での経験があったおかげで、何が起きても驚かない器ができていました。こちらが驚かないと親も落ち着き、教員も振りあげた拳をおろしてくれました。

こうした経験を生かし、98年から杉並区で子ども相談室「モモの部屋」を始めました。名前はエンデの小説『モモ』にあやかりました。モモは天性人の話を聞くことが上手な少女です。私もモモに一步でも近づきたいと願いつつ、人々が出会い、語りあい、時間泥棒から時間を取り戻すのに必要な心寛げる場を用意しています。



【プロフィール】

本名：横内保美（71回生）
陸上部・親友会。中央大卒。
東京都立中学校に約30年間勤務。早期退職して執筆に専念、ネット上に公開中。
<http://sangoku-touitushi.com/>

『志在千里 烈士暮年 壮心不已』 横内 凜童（71回生）

りんどうは花ひらかぬが美しい／童のままこそ愛しい／ひと知れぬ高みに在りてただ独り／短き季節 凜と咲く／気高き想い抱きつつ／精一杯に 隆と咲く／訪なう人無かろうと／唯一輪 凜と咲く／群青の色深く 碧は濃きを極める・・・

これは小生が50歳を迎え、小説『三国統一志』を書き出した時の心境である。それまで他者と眼一杯関わって来た。己と向き合っても好いだろう。で爾来8年続き、何時の間にやら原稿用紙だと1万枚に近い。

5年経った頃にパソコンやHPなるものの存在を知り、『面倒臭く無くて好いや！』と公開し続けて居る。但し常に《お前、そんな事やってる場合か！？》と云う後ろめたさを宥めながらである。だが一方では《兎に角やれ！》と云う天の声？まあ面白いから、ついつい夜昼寝食も無頓着の創作三昧。5～6時間は当たり前で一瞬の裡に過ぎてゆく。

蓋し其れは《永遠》に繋がる《己の生きた証》なのだろう。人間としての深みや内面の充実を寧ろ60過ぎてからこそが本物なのだと思う。本当に書きたいモノは他に在る。道は未だ遠い。我が主人公の1人、曹操孟徳いわく・・・老驥伏櫪／志在千里／烈士おのこは老いにしも／壮き心の已む事はなし！／である。

※写真は、清陵陸上部時代の後輩達と。(南信駅伝大会)小生は、最前列のジャンパー姿でパーを出しているヤツデス。



【プロフィール】

日本大学生産工学部卒業。
(株)永田製作所入社。
現在、(株)永田製作所・(株)ナガタグループ社長。
DTF研究会会長。
(財)諏訪湖勤労者福祉サービスセンター理事長を務める。

『諏訪地方のものづくりにかける』 永田 修平（72回生）

大学卒業後、創業者の2代目として永田製作所へ入社。光学レンズ製造用諸設備及び高精度原器等の開発製造を担当している。特に光学レンズ用球面治具の生産は、全国シェアの80%を占め、同時に多くの特許を所有する。

諏訪地方の精密機械工業スマートデバイスの分野で、ものづくりの先端を走る。テクノ財団・日本電産サンキョー・若手経営者が中心になって設立したDTF（デスクトップファクトリー）研究会では、会長を務める。昨年岡谷市で開催された、ものづくり先進都市が集結した中小企業サミットでは、岡谷市の企業を代表してシンポジウムのパネラーを務めた。

岡谷市は、古くから「シルクおかや」として世界的に知られた工業都市であるが、時代の変化にも揺るがず、培った技術を最大限に活用し、超精密・超微細で高機能な部品を提供する世界的供給基地として躍進している。

「走り出した電車を止めるわけにはいかない」「乗ってしまった高速道路から降りることもできない」をモットーに、ものづくりの先端をひたすら走る。地方分権の時代、地方の活性化に向け、諏訪地方の未来に向かって。



【プロフィール】

日本大学大学院理工学研究科修了後、昭和52年より東京大学宇宙航空研究所勤務。その後改組により宇宙科学研究所を経て、現在独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部宇宙航行システム研究系勤務。

『夢に向かって・再使用ロケット実験機』 成尾 芳博（74回生）

今の技術ではまだまだ夢ですが、誰でもが宇宙に行ける乗物としてのロケットを実現するために研究を続けています。人類がこのまま繁栄を続けるためにはいずれは地球という閉鎖生態系の外から助けを借りなくてはなりません。地球外から資源を持って来るにしても地球外に移住するにしても、その時には今のものとは全く異なるロケットが必要になると考えられます。そのためにはどうしたらよいか、既成の概念に囚われることなくチャレンジを続けています。

国の予算状況は厳しく研究費はなかなか付きませんが、写真は手塩に掛けて作り上げた再使用ロケット実験機(RVT)です。まだ地球周回軌道まで到達する能力はありませんが、液体水素と液体酸素を推進剤とするロケットエンジンを搭載し、3年前に高度42mまで垂直に上昇、軟着陸に成功しました。そして整備の後、24時間後には再び飛行するという実験にも成功しました。材料の軽量化、故障許容システムの構築等々、課題は一杯残っていますが、千里の道も一歩から。まずは現役の内に高度100km以上に達する再使用観測ロケットを実現させ、定年後は誰でもが宇宙に行ける乗物としてのロケットの必要性を説いて回りたいと考えています。

※写真は、ロケットの前で。左が筆者。



ご挨拶

同窓会長 林 尚孝

皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。昨年の総会時に任期満了となりましたが再任され、来年まで会長を務めることになりました。同じ総会において、新たに松下勲副会長(59回)、生越万理子副会長(66回)、矢崎斉男監事(50回)、河西節郎監事(52回)の皆さんが選任されました。副会長5名制で来年総会まで同窓会をお預かりすることになります。これまでも増して、会員の皆様のご協力を賜るようお願いいたします。これに伴い、洲上良子副会長(56回)、山岡正邦監事(48回)、竹村一司監事(50回)が退任されました。長い間、お忙しいなか同窓会活動に献身的にご尽力下さり有難うございました。心から感謝申し上げます。

一昨年の母校創立110周年記念総会は溢れんばかりの盛会でしたが、その反動で昨年の総会参加者の減少が心配されました。ところが、一昨年同様の盛会となり、会員の皆様の同窓会に寄せる熱い心を感じました。昨年の会報でお知らせしましたように、クラブ後援会に、9年間で2,237万円の寄金が皆様から寄せられ、後輩への暖かい激励に感謝しております。お蔭様で、生徒諸君は全国大会などに参加することができ、皆様の期待に添う活動を展開しています。第2次募金活動は、この3月で終了しましたが、引き続き第3次募金活動を行いますので、相変わらぬご支援をお願いいたします。支部活動も活発に行われており、役員の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

第一校歌「東に高さ」の作詞者・伊藤長七の今年は生誕130年に当たります。母校創立以前の「育英会」出身ですが、母校との深い交流がありました。その生涯は、矢崎秀彦(35回生)著『寒水 伊藤長七伝』に詳しく紹介されています。伊藤家に保存されていた大量の伊藤長七関係資料が長野県立歴史館に寄託され、それを記念して、6月9日に本同窓会と小石川高同窓会の共催による「伊藤長七アーカイブス記念フォーラム」が開かれます(別項)。フォーラムに多数の方がご参加いただければ幸いです。

同窓の皆様は、遠くから母校の状況に心を寄せ、週刊誌などをご覧になっていると思いますが、県下の高校としては優れた結果が報道されています。甲府一高、都立小石川高、都立両国高校などの現状をみると、健闘しているとも思われます。しかし、諏訪区域から数十名が、松本地区・山梨県に流出している事実を見逃すわけには参りません。一諏訪清陵高校の問題としてではなく、諏訪全体の問題として考えなければなりません。また、諏訪清陵のSSHが有名になりすぎたためか、一部の中学校で文系は「諏訪二葉」か「岡谷南」へという指導がなされている風評にも留意すべきだと考えます。これらの問題は同窓会としても重視してゆくつもりですが、「諏訪清陵の今後の在り方」について、同窓の皆様からご示唆頂けると幸いです。



人生の土台は 清陵で築かれる

学校長 古原 正之

同窓生の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より、母校に様々な形で温かいご支援を賜り、誠に有り難うございます。とりわけ、(財)諏訪清陵会、理振等を通じての学習環境やクラブ活動への援助は大変心強く、進学等の好成績や文武両道の学校方針を支える一因となっております。重ねて、感謝の意と引き続いてのご支援を心よりお願い申し上げます。また、昨年度は私自身へも温かい励ましの言葉を多くの同窓生の皆様から賜りました。こちらも、同様のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度は同窓会各支部の総会に出来る限り出席させていただきました。その度に、皆様方の母校に対する深い思いと期待を感じ取ることができました。私にとりまして、団塊世代のトップとして間近に退職を控えた中で、自分の人生を振り返る格好の機会となり、改めて清陵で過ごした日々の中で人生の土台が築かれていたことを自覚しました。

ある同窓生の方が、「清陵時代に形成した価値観や感受性はその後の年輪を経ても基本的にはあまり変わっていない。変ったと思えることでも、よくよく考えれば、清陵時代の主題の変奏曲を奏でているようなものだ」と、述懐していました。誠に同感の思いです。私も未だに「千万人」の反骨精神を時として抑えることが出来ず、清陵人である自分を実感しています。生徒諸君にも、その伝統を受け継ごうとしている姿が感じられ、頼もしく思っています。今後とも教職員一同力を合わせ、生徒に対し、なお一層人生の土台をなす価値観や感受性を磨くべく、あらゆる機会を通じて努力していきたいと思っています。

さて、その生徒諸君ですが、3月に237名の110回生が巣立って行きました。彼らには、藤原正彦氏の『国家の品格』の中から、「真のエリートとは、一見何の役にも立たない教養をたっぷりと身につけ、常に社会や人々に尽くす気概と、俗世に迎合しない精神性を持ち合わせている人」を引用し、これは清陵の校歌や「千万人」の精神そのものであり、この清水ヶ丘の生活を土台になお一層努力するよう激励して送り出しました。進学にクラブ活動に大きな実績を残してくれた彼らの今後の活躍に期待したいと思います。

また、4月には242名の113回生を迎え入れました。東大寺三月堂の柱に刻まれている「千日不断花」の落書きから、「清陵という空間を心身を鍛える修行の場として日々鍛錬すれば、その努力が必ずや千日後に大輪の花となる」ことを呼びかけました。彼らも、「自反而縮雖千万人吾往矣」の校是や「自治」の校風のもと、この清水ヶ丘での生活を通じ、必ずや今後の人生の土台を身につけてくれるものと思っています。

それでは、皆様のご多幸とご健在で益々活躍されんことを心よりお祈り申し上げ、今年度の挨拶とさせていただきます。

「伊藤長七アーカイブス」 記念フォーラムの開催について

—諏訪の生んだ偉大な教育者、 伊藤長七を知ろう—

「東に高き八ヶ岳 西にはひたす諏訪の湖」、諏中・清陵の第一校歌の作詞者、伊藤長七とはどんな人物なのか。

2001年、我々68回生は、『東京清陵会だより』第12号に、8ページの「特集 寒水・伊藤長七の足跡を訪ねて」を組んだ。定期総会では伊藤長七の胸像を会場に飾り、お孫さんにあたる伊藤博子さん(劇団民藝)の朗読に感動した。

2004年、紫友同窓会(東京府立五中・小石川高校)は、創立85周年記念に「我らは長七の教え子だった」という企画を組み、五中の初代校長で同校校歌の作詞者、伊藤長七の関係資料の展示と記念CDを作成した。このとき、東京清陵会関係者も招かれ、諏訪中学の先輩で『寒水・伊藤長七伝』の作者、矢崎秀彦氏(35回生)は特別功労賞を授与されている。

伊藤長七は明治10年(1877)、諏訪の四賀村に生まれ、上諏訪育英会、長野師範に学んだ後、諏訪、小諸で教鞭を取り、さらに東京高等師範卒業後、同附属中学教諭となった。大正8年(1919)、五中の初代校長に抜擢され、独創的で自由な教育を実践した。その交友関係は、島木赤彦、太田水穂、島崎藤村、岩波茂雄から、沢柳政太郎、後藤新平、新渡戸稲造まで幅広く、その活動は、信州における夏期大学から、欧米との教育国際交流、米国大統領との会見、ブラジル移民教育構想にまで及んでいる。昭和5年(1930)、53歳で死去。

伊藤長七の生涯にわたる膨大な資料が伊藤家から長野県立歴史館(千曲市)に寄託され、公開準備が進められている。これを記念して、2007年6月9日(土)午後1時30分から、長野県立歴史館「伊藤長七アーカイブス」記念フォーラムが開催され、記念講演、朗読、資料展示などが行われる予定である。

春山明哲(68回生:「伊藤長七アーカイブス」記念フォーラム実行委員会事務局)

平成18年度末 教職員人事異動

転 出			転 入		
氏 名	転 出 先	教科等	氏 名	前 任 校	
吉田 理恵	田川高校	国 語	武居 美博	岡谷南高校	
熊谷佐知子	白馬高校				
佐々木康彦	梓川高校	地 歴	矢花 和成	松本筑摩高校	
味澤 秀治	木曽青峰高校	数 学	濱 恒弘	下諏訪向陽高校	
	木曽山林高校		朝倉 三好	神奈川県麻布大 学附属淵野辺高	
坂本 和彦	退職	理 科	矢澤 正章	伊那北高校	
松田 章利	県教育委員会 高校教育課		久松 俊雄	諏訪二葉高校	
小宮山忠治	塩尻志学館高校	書 道	上島 明奈	辰野高校	
今井 博子	諏訪地方事務所	行 政	秋山 充也	松本養護学校	
小林 尚樹	下高井農林高校		横関 好一	茅野高校	
山田 充子	退職		石田 和枝		

平成19年度入試 入試結果 (平成19年4月現在)

国 立 大 学	現 役	浪 人	合 計	私 立 大 学	現 役	浪 人	合 計
北海道	3		3	国際医療福祉	2		2
東北	6	1	7	了徳寺	1		1
茨城	1		1	明海		1	1
筑波	5		5	獨協		2	8
千葉	1	2	3	文教	7	1	8
電気通信	1		1	神田外語	1		1
東京	3		3	千葉工業	2		2
東京外国語	3		3	帝京平成	1		1
東京学芸	4		4	千葉科学	2	1	3
東京芸術	1		1	亜細亜	1		1
東京工業	2	1	3	青山学院	7	2	9
東京農工	2	2	4	大妻女子		1	1
一橋	1		1	北里	3	2	5
横浜国立	2	1	3	共立女子	1	1	2
長岡技術科学	1		1	杏林	2		2
新潟	4	2	6	慶応義塾	5	3	8
上越教育		2	2	工学院	1		1
富山	3		3	國學院	2	4	6
金沢	2	3	5	国士館	1		1
福井		1	1	駒澤	4		4
山梨	5	2	7	実践女子		1	1
信州	18	11	29	芝浦工業		4	4
静岡	5	2	7	上智	5	1	6
浜松医科	1		1	昭和薬科	1	1	2
名古屋	5	1	6	女子栄養	1		1
名古屋工業	1		1	成蹊	2	1	3
岐阜		1	1	成城	4	2	6
三重	1		1	清泉女子	1		1
滋賀	2		2	専修	2	3	5
京都		2	2	創価	3	1	4
京都工芸繊維		1	1	大東文化		3	3
大阪	2		2	大正	1		1
大阪外国語	1		1	拓殖	3		3
神戸	1		1	多摩美術	2		2
奈良教育	1		1	中央	12	3	15
奈良女子	2		2	津田塾	1		1
島根		1	1	帝京	2		2
九州	1		1	東海		3	3
琉球	1		1	東京音楽	1		1
合計	92	36	128	東京家政	3		3
公 立 大 学	現 役	浪 人	合 計	東京経済	1		1
高崎経済		1	1	東京女子	1	2	3
群馬県立女子		1	1	東京農業		2	2
首都大学東京	8		8	東京薬科	4	1	5
横浜市立	1		1	東京理科	2	3	5
都留文科	2		2	桐朋学院	1		1
静岡県立		1	1	東邦		2	2
愛知県立	1		1	東洋	3	1	4
岡山県立	1		1	日本	8	5	13
合計	13	3	16	日本女子	2		2
国公立合計	105	39	144	法政	9	8	17
				武蔵野美術	1		1
				武蔵野	2	1	3
				明治	12	8	20
				明治学院	3	3	6
				明星		3	3
				立教	2	2	4
				早稲田	13	7	20
				東京工芸	1		1
				神奈川	8		8
				関東学院	2		2
				鎌倉女子	2		2
				フェリス学院	1		1
				長岡造形	1		1
				金沢工業	1	2	3
				帝京科学		1	1
				岐阜聖徳学院	1		1
				岐阜医療科学	1	1	2
				静岡理工科		3	3
				聖隷クリストファー	1		1
				日本赤十字豊田看	1		1
				愛知医科	2		2
				金城学院	1		1
				中部	1		1
				名古屋女子	1		1
				南山	1		1
				京都産業	3		3
				京都女子	3		3
				同志社	3	1	4
				同志社女子	1		1
				花園	1		1
				立命館	10	4	14
				近畿		1	1
				関西学院	2	1	3
				甲南女子	1		1
				私立合計	207	103	310

現役進学率

卒業生総数	237人
就職者数	0人
進学希望者	237人
進学者数	173人
進学率	73.0%

学校だより

学校長に諏訪二葉高等学校より古原正之先生(69回生)を迎え、4月5日(水)の入学式では242名(男子137名・女子105名)の新入生の入学許可をし、全校生徒733名(男子431名・女子302名)・教職員66名で平成18年度の新しいスタートを切りました。

3月3日(土)第59回卒業式が厳粛な雰囲気の中で行われ、卒業生237名(男子155名・女子82名)を送り出しました。

また、年度末には、本校発展のためにご尽力いただいた10名の転退職なさる先生方をお送りしました。(別表参照)

この1年間、清陵祭・端艇大会・湖周マラソン等、本校伝統の学校行事も行われ、生徒達は学習だけでなく部活動や学友会活動に汗をかきました。清水ヶ丘での青春の思い出は、一生心に残ることと思います。

お時間がありましたらぜひご来校いただき、生徒や学校の様子をご覧ください。

運動系クラブ

今年度も多くの運動系クラブが素晴らしい成績を残しました。中でも端艇部は、男子クオドルプル(青木・小松・小林・中嶋・田中)が全国5位入賞を果たしました。また県高校総体で優勝した男子クオドルプルと女子クオドルプルが8月のインターハイに出場し、男子クオドルプル(青木・小松・金原・小林・森田)が準決勝4位、女子クオドルプル(藤森・森田・竹原・仁科・山崎)が準決勝6位でした。陸上部の伊藤森太郎君もインターハイに出場し、400Mで見事全国3位入賞を果たしました。その他、男子バスケット、サッカー、女子バスケット、卓球、女子バレー、剣道と多くのクラブが県大会に出場しました。

端艇大会

文化系クラブ

文化系のクラブは清陵祭での発表や展示が目標ではありますが、運動系に負けず、数多くのクラブが多くの大会に出場したり、展覧会に出場しました。

黒点観測において日本でもトップクラスの活動年数を誇る天文気象部は「高校生の提案を南極北極へ」というコンテストにおいて昨年に引き続き研究提案し、特別賞(化学賞)をいただきました。

また音楽系クラブでは、特に活動が盛んで、早朝から楽器の音が鳴り響いています。吹奏楽部では全日本吹奏楽コンクール県大会に出場し、またアンサンブルコンテストにおいても2チームが激戦を勝ち抜き、県大会に出場して好成績を収めました。また古典ギター部は、全国ギターマンドリンフェスティバルにて昨年に引き続き全国大会へ出場し優秀賞、朝日新聞社賞という快挙を成し遂げました。



The 61st National Sports Festival In TOYOOKA

学友会

新入生歓迎会・クラスマッチ・清陵祭・端艇大会・湖周マラソンなど多くの行事が学友会で運営されています。2月には、コモンスペースにて役員が卒業式に向けて校歌を毎日歌うなど自治の伝統の精神を引き継ぎ頑張っています。今後に期待したいです。



「きれいな水 きれいな空気
きれいな地球を 次世代へ」

クリーン&ファインテクノロジー

株式会社 ミスズ工業

精密金型・プレス部品・高密度半導体実装モジュール・医療機器関連部品

代表取締役会長 山崎 壮一(51回)

代表取締役社長 山崎 泰三(83回)

取締役社長室長 山崎 俊一(80回)

本社 諏訪市四賀3090 TEL0266-52-6611(代)

やさしさをぬくもりのおもてなし

政府登録国際観光旅館



代表取締役社長 山崎 壮一(51回)

取締役社長室長 山崎 滯子(56回)

取締役 山崎 俊一(80回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り3-3-10 TEL0266(58)8000

SSH「海外科学セミナー」アラスカ研修



2007年2月11日から4泊6日でアメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクス市に2学年SSH課程生28名(男子12名、女子16名)を派遣した。ちょうど本年は国際科学会議(ICSU)などが企画し世界30カ国が参加している国際極年2007-2008にあたり、本校観測隊は天文気象部が継続観測している太陽黒点と同様に太陽の活動と密接なかわりを持つオーロラ観測をはじめ、各種観測や実験を行った。

多くのSSH校が海外研修を行っているが、このように自校の長年の研究に基づいて現地での観測を主目的とした研修はほかに例を見ない。

日程がオーロラの活発な時期にあたっただけでなく天候に恵まれたため、観測3日ともすばらしいオーロラを観測することができた(写真上)。このためフィルター撮影、CCDカメラによる動画など多くのデータを持ち帰ることができた。さらに1人1テーマ以上の観測、実験に成功し、貴重なデータを得ることができた。またアラスカ大学フェアバンクス校において地震、火山、気候変動などについて英語で研修を行った(写真右)。

現在結果を解析中で、清陵祭や各種学会などで研究発表を行う予定である。

生徒の感想より抜粋

初めてオーロラを観たとき、それまで溜まっていた疲れも吹っ飛び、私は感動のあまり雄叫びを上げてしまいました。それほど感動的だったのです。それを初めて写真に収めたときは嬉しくて涙が出そうになりました。星野道夫さんがアラスカの虜にされた気持ちもわからなくはありません。でも、一番すごかったのは3日目のオーロラです。絶えずオーロラが出て、消えることはありませんでした。すごいときは空一面にオーロラが広がり、カーテンが風で揺れているように動いていました。その様子はまるでオーロラが生きているようで、私が寝転がって真上のそれを観たときオーロラに吸い込まれそうな、そういう感覚がしました。はっきり言って私はこんなにすごいオーロラを見ることができるとは思ってなかったし、オーロラがこんなに感動するものとも思ってはいませんでした。だからこの研修に来てよかったと思ったし、SSHでよかったと初めて思えました。また、これも幸運なことにロケットの発射も見ることができました。自分の運を使い果たしたのではないかと言うくらいに、良いこと続きでした。でも、こんなに感動できたのは、今まで自分達で色んなことを学び、事前準備でオーロラについて知っていたからより感動できたのだとおもいます。



処方せん調剤 漢方薬
有限会社 二葉薬局

会長 井上彦次 (42回)
会計 浜正一 (70回)
薬剤師 井上優 (42回)
社長 井上幸彦 (84回)

〒392-0026 諏訪市大手1-3-2
TEL 0266-52-1242
FAX 0266-52-3460

整形外科 外科 産科 婦人科
立木医院

立木正純 (38回) (整形外科)
(日本体育協会公認スポーツドクター)
(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)
(全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター)
立木委枝 (産婦人科)

〒392-0004 諏訪市諏訪1丁目22-24
電話 0266-52-1074

平成18年度 定期総会の記

平成18年6月24日、ホテル紅や(諏訪市)にて、定期総会が開催された。110周年記念総会の翌年で出席者の減少が危惧されたが、当番幹事の73回生、サブ幹事の74回生はじめ大勢の方々の働きかけで300名を超え、昨年に迫る大盛会となった。(出席登録者数415名)当日は好天でさわやかな天候にも恵まれたが、母校を思う多くの同窓生の気持ちの現れであるといえよう。

学年幹事を、平成17年10月に73回生より引継ぎ、森 千章君が幹事長に就任し各部会を編成し、総会に向けての諸準備に取り掛かった。同時に東京支部も学年幹事であり、連携を取りながら進められた。18年度のキャッチフレーズを「我が青春の原点……あの時君は若かった……」とし、マッチングするような総会および会報編集の企画が考えられた。学年幹事を中心に多くの同窓会員の協力により、会報発行、総会の諸準備を進め当日を迎えることができた。

総会が始まり、林会長はあいさつで、110周年記念事業の報告と感謝を述べ、また同窓生の母校への支援についての協力を求めた。来賓のあいさつでは、本年4月に就任された古原正之校長(69回生)が母校の近況報告と共に、細田直史教頭(75回生)とのOBコンビで、学校を引っ張って行く決意を示し拍手を浴びた。



鳥羽
研二氏



新役員の皆様



長い清陵の歴史の中でも、校長・教頭がOBで占めるのは希なことである。

議事では、平成17年度の会務報告・決算報告等、平成18年度事業計画・予算等が原案どおり可決された。役員については改選期を迎え、林尚孝会長(52回生)が再選され、副会長は長年ご尽力いただいた淵上良子さん(56回生)の退任に伴い生越万理子さん(66回生)と、増員に伴い松下勲氏(59回生)を新たに選任した。岩田昌久氏(50回生)、茅野實氏(52回生)、今井正喜氏(58回生)の3氏は再選された。監事には矢崎斉男氏(51回生)、河西節郎氏(52回生)の両氏が新たに選ばれた。役員任期はいずれも2年である。19年度当番幹事の74回生を代表し今井竜五氏が決意を述べ、総会は終了した。

記念講演は杏林大学医学部教授の鳥羽 研二氏(73回生)による「サクセスフル・エイジングを考える……君は鉄槌を三度、振り上げられるか」のテーマで行われた。日本は世界に誇る長寿国で健康寿命も世界一であるが、元気で老いていくための様々なヒントを、ユーモアたっぷりに話された。年とともに社会の波に流され、鉄槌をかざせなくなって来るが、上手な老いのヒントは、正に清陵校歌の中にあったと結んだ。

懇親会では、清陵OB・OGによるこの日のためのスペシャル・ジャズバンドがオープニングを華やかに飾った。あちらこちらで談笑の輪が広がり、旧交が温められた。会場に入りきれない出席者も出る盛況の中、73回生による「寮歌・愛唱歌」で青春時代に戻り、会場一体となり歌が広がった。74回生の音頭で校歌を斉唱し、再会を誓いお開きとなった。

(73回生 松木 敏博 記)



昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎本店(0120)210-613

代表取締役会長 細川 昭 八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋 一 (84回)

専務取締役 宮坂 友比古 (67回)

常務取締役 細川 浩 二 (86回)



創 業 仙 岳

シヤブシヤブ
ふぐ料理
天 ぶら

代表 小口 達 夫
小口 慶 一 郎 (84回)

諏訪市湖岸通り 5-17-6
TEL 0266 (58) 3515

創立110周年記念事業について

三澤勝衛先生記念文庫 整備状況

三澤勝衛先生記念文庫の整備が計画され運営委員会が再編され、整備に取り組んで2年になる。

蔵書目録の基本的な項目のデータベース化(デジタル化)、研究論文等のデジタル化は単行本等を除きほぼ終了した。整備状況の概要は下記の通りである。

1. 館内の整備

- ・閲覧室壁面へは新たに昨年9月寄贈された竹村青堂氏(51回生)の水彩画(アヤメ)額 展示

2. 三澤先生の研究物・研究資料の整理

- (1) 三澤勝衛の「太陽黒点観測」データ(「BULLETIN」の資料など)整理完了 データベース化完了
- (2) 「三澤勝衛地理研究資料目録」(小林茂樹氏を中心に1980年作成) データベース化完了
- (3) 研究論文など 研究資料のデジタル化 進行中
(画面調整はPhotoshop elements 3.0)
・研究論文等約150編(単行本除く)完了
・写真帳(約600枚)デジタル化 完了

3. 蔵書類の整理

蔵書目録 データベース化 基本項目についてはほぼ完了
(File Maker Pro 7 により作成)

- (1) 開館当時三澤家から寄贈図書文献類
 - ・「寄贈書籍・文献資料目録」 3433項目
 - ・「寄贈雑誌目録」 338種類
- (2) 開館後、購入・寄贈を受けた書籍・雑誌・文献類
 - ・単行本目録(約1800)・雑誌目録(約290種)
 - ・資料目録(約150)・論文目録(約180)
- (3) その他デジタル化したもの
 - ・開館記念文集(三澤勝衛先生)・三澤勝衛記念集等

4. 三澤文庫のホームページ立ち上げと整備 今後の課題

ホームページを立ち上げ、図書目録や研究物・資料目録の公開等が目標であるが、そのためにはさらに整備が必要で、係員が常駐しない文庫でもあり、要員・経費・掲載範囲等検討すべき問題は多い。

5. 三澤勝衛先生記念文庫の整備を組織化し継続させることで、文庫を活性化させる。

三澤文庫は三澤勝衛先生の精神の結晶であり、清陵高校の伝統の原点でありシンボルである。文庫を活用しやすいように整備し、利用者への便宜を図ると共に、この整備を一つの契機に、校内での学問研究への意識の活性化を図る。昨年、校内廊下に文庫内と同じ先生の言葉2枚(複写額装)を展示することができた。

目録・研究物のデジタル化中心で整理を進めてきた。データベースの充実や現物との対比、整理はすべてこれからの状況である。雑誌や資料は老朽破損が進んでいる物も多く、整理や保管方法の研究、活用しやすい収納の仕方の工夫も必要である。今後、機材も含めて、継続的に維持管理していく必要があるが、色々な形でご協力いただければ幸である。

三澤先生記念文庫運営委員長 金子佳正 (51回)

『会員名簿』発行事業の決算報告

母校創立110周年記念事業の一環として、昨年1月に『会員名簿』を発行することができました。発刊までの経過や個人情報への対処等につきましては、平成18年5月発行の『清陵同窓会報』第32号(13ページ)をご覧ください。何れに致しましても、10年振りに同窓会『会員名簿』を発刊することができましたことは、偏に会員各位の絶大なるご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、この名簿の発刊(発送)以来今日まで、払込をいただきました“名簿代金”や“賛助広告代金”の整理、新たな購入希望者への名簿送付、二度にわたって“名簿代金”を振込んでいただいた方々への返金、また折をみて三度にわたる名簿代金の“催促”等、様々な後始末を行ってまいりました。年度の区切りに当たり、平成15年度よりスターと致しました名簿に関わる会計決算その他を茲にご報告し、平成18年度末を以って創立110周年記念事業“会員名簿発行事業”の締め括りと致します。なお、今後とも毎年の『会報』送付等もありますので、住所等が変られました節は是非とも事務局宛にご連絡いただけます幸いです。

- ・『会員名簿』購入希望者(発送済)数: 5,810冊
- ・返送された冊数(発送したが、その時点で既に住所変更等で届かなかった方): 19冊
ー事務局で保管しておりますので、ご連絡くださいー
- ・返品された冊数(会員が物故なされ、そのご家族では名簿を必要としない等): 13冊
- ・寄贈冊数: 112冊(賛助広告主・母校)
- ・名簿代金“未納”会員: 125名
- ・名簿代金“未納”で連絡が取れない会員(住所変更等): 4名
ー以上、何れも平成19年3月31日現在ー
- ・平成15年度以降の名簿発刊に関わる収支決算は以下の通りです。尚、平成19年2月17日の同窓会“幹事会”において「平成19年4月1日以降に振込まれた“名簿代金”は、同窓会の“一般会計”へ繰り入れること」を承認頂いております。名簿代金“未納”の方は今からでも是非お振込みをお願い致します。

『会員名簿』決算報告

(平成15年4月1日～19年3月31日)

<収 入>	基金より	18,524,464円
	名簿代金(広告代含む)	31,894,340円
	雑収入(利子)	352円
	《 合 計 》	50,419,156円
<支 出>	データ整理・編集・印刷費	25,980,000円
	梱包・送料	2,806,587円
	編集会議費・旅費	168,572円
	代金振込取扱票印刷	69,090円
	パソコン更新	219,975円
	そ の 他	174,932円
	基金へ(信金・定期預金)	21,000,000円
	《 合 計 》	50,419,156円

名簿編集委員長 松下 勲 (59回)

平成18年度 会務報告

■平成18年

4. 5 諏訪清陵高校112回生入学式 新
入生242名(女子105名) 林会長
祝辞 新入生に「校歌CD」ビデ
オ「清水ヶ丘にうたう」を贈る
『会員名簿』編集委員会 17:30
松下委員長他5名(仙岳)
4. 7 『同窓会報』編集委員会 14:00
73回生・事務局長(清陵会館)
4. 20 物故会員並びに道志先輩慰霊
法要 11:00 地蔵寺にて 林
会長他37名参列
正副会長打合わせ会 14:00
(清陵会館)
4. 22 上伊那支部総会 林会長・古原
校長出席 15:00(辰野パーク
ホテル)
4. 28 『同窓会報』打合わせ会 14:00
73回生・事務局(清陵会館)
5. 8 三澤文庫委員会 10:00
金子委員長他6名(三澤文庫)
5. 12 『同窓会報』打合わせ会 14:00
73回生・事務局(清陵会館)
定期総会準備会 14:00
第73回生・事務局長(清陵会館)
5. 18 (財)諏訪清陵会・同窓会会計監査
14:00(清陵会館)
山岡正邦・竹村一司両監事,
今井副会長・事務局長
5. 19 三澤文庫委員会 14:00
金子委員長他5名(三澤文庫)
5. 27 (財)諏訪清陵会理事・評議員会
平成17年度事業・決算承認, 平成
18年度事業・予算承認, 寄附行為
の件, 11:30(母校会議室)
同窓会常任幹事会 幹事会提出
議案審議 13:30(清陵会館)
幹事会 平成17年度事業・決算承
認, 平成18年度事業・予算承認,
役員改選・会員名簿・三澤文庫整備
事業, 他 15:30(清陵会館)
懇親会 17:20(清陵会館)

5. 29 『同窓会報』第32号発送(1学年
・73回生協力により約16,500部)
6. 23 『会員名簿』委員会 14:00
松下委員長他4名(清陵会館)
定期総会準備会 第73回生・今井副
会長・事務局長 19:00(ホテル紅や)
6. 24 平成18年度諏訪清陵高校同窓会
定期総会 13:30~(ホテル紅や)
平成17年度会務・会計(一般・特別
・クラブ)報告, 平成18年度事業
計画・予算などの承認, 会員名簿
の件, 三澤文庫整備事業の件,
クラブ活動同窓会後援会継続の
件, 役員改選の件, 他
記念講演ー「サクセスフルエイジ
ングを考える」
講師: 鳥羽研二氏(73回生 医学
博士 杏林大学医学部教授)
懇親会ー17:00 オープニング
清陵OBスペシャルバンド アトラ
クション: 古き良き時代を思い返
し, 一緒に寮歌等歌ってみませんか
〔当番幹事73回生, 次期当番幹
事74回生, サブ幹事83・93回生〕
7. 8 母校1年生を対象に林会長の講演会
演題「清水ヶ丘の6年間」9:00
8. 25 林会長・茅野副会長・今井副会長
・松下副会長 県教育委員会訪問
9. 11 事務室パソコン関係機器更新
10. 18 母校「諏訪湖一周マラソン」
8:40 OB参加18名
10. 20 東京支部(東京清陵会)総会
18:00(アルカディア市ヶ谷)
松下副会長・古原学校長出席
10. 24 当番幹事学年引継ぎ会(73回生か
ら74回生へ) 19:00(仙岳)
松下副会長・事務局長
11. 5 林 隆憲氏(68回生)フルトリサイ
タル 14:00(下諏訪総合文化セン
ター)〔同窓会後援〕
11. 11 本会顧問 小口禎三氏(36回生)
逝去
11. 17 諏訪支部総会 18:00
(諏訪シティホテル成田屋)
松下副会長・古原学校長出席
11. 23 同窓会本部役員(三役)会
14:00(清陵会館)

11. 23 「鶴八鶴次郎」公演 内山森彦氏
(58回生) 出演 18:00(諏訪市文
化センター)〔同窓会後援〕
12. 1 母校の将来に関して意見交換
学校長・今井副会長・松下副会長
・事務局長 14:00(清陵会館)

■平成19年

2. 3 富士見支部総会 18:00(味彩)
林会長・古原学校長出席
2. 4 茅野支部総会 15:30
林会長・古原学校長出席
(マリオローヤル会館)
2. 5 母校の将来に関して意見交換
学校長・今井副会長・松下副会長
・事務局長 14:00(清陵会館)
2. 16 北信支部総会 18:00 林会長・
古原学校長出席(ホテル国際21)
2. 17 (財)諏訪清陵会理事・評議員会
平成19年度事業・予算の件, 他
11:30(母校会議室)
同窓会常任幹事会 幹事会提出
議案審議 13:30(清陵会館)
幹事会 平成19年度定期総会関
係, 母校の今後について, 三澤
文庫整備事業, 地蔵寺に関して,
他 15:45(清陵会館)
懇親会 17:00(清陵会館)
2. 21 岡谷支部総会 18:30(ホテル岡
谷) 松下副会長・古原学校長出席
2. 24 関西支部総会(創立10周年)
11:00(阪神グリーンルーム)
茅野副会長・古原学校長出席
東海支部総会 15:00(舞鶴館)
林会長・生越副会長出席
3. 3 母校第110回生卒業式 10:00
卒業生237名(女子82名)
林会長 祝辞 同窓会から卒業記
念として「印鑑セット」を贈呈
3. 4 松本支部総会 16:00(松本東急
イン) 林会長・古原学校長出席
3. 9 下諏訪支部総会 18:00(ぎん月)
松下副会長・古原学校長出席
3. 23 母校転任教職員送別会 18:00
(浜の湯) 同窓会より餞別(10名)
林会長出席
・他「三澤先生記念文庫」の整備
事業を年間を通じて随時

立石司法書士事務所

司法書士 立石 邦 廣(74回)

事務所 茅野市ちの3550番地29
〒391-0001 電話(0266)73-5377
FAX(0266)73-3491

高木会計事務所

税理士 高木 健 治(74回)

事務所 岡谷市加茂町3-6-5
電話 0266-21-6666

平成18年度 同窓会一般会計決算報告

収入総額 8,181,188円
支出総額 6,997,555円
差引残高 1,183,633円 (平成19年度へ繰越)

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増減(▼)額	備 考
前年度繰越金	865,031	865,031	0	
入 会 金	1,210,000	1,210,000	0	5,000円×242名
終 身 会 費	4,840,000	4,840,000	0	20,000円×242名
基本財産収入	10,000	14,555	4,555	定期預金利息
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	基金より
雑 収 入	50,000	251,602	201,602	普通預金利息、CD100年史 売上金、44回生寄附金、他
合 計	7,975,031	8,181,188	206,157	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増(▲)減額	備 考
会 議 費	250,000	170,640	79,360	役員会、慰霊法要等
総 会 費	350,000	324,924	25,076	運営費、資料印刷代、広告代、他
旅 費	600,000	613,620	▲ 13,620	役員会、役員出張旅費
人 件 費	480,000	480,000	0	給与(事務局長)
需 要 費	100,000	95,680	4,320	新聞代、事務用品、他
役 務 費	250,000	236,726	13,274	電話料、郵送料、LCV-Net利用料
慶 弔 費	800,000	817,875	▲ 17,875	支部総会祝儀、饗別、弔電、広告代
記 念 品 費	200,000	167,440	32,560	卒業生への記念品代
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会報(190万)、清陵会(200万) 会館維持(5万)
基金繰出金	0	0	0	
備 品 費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	995,031	140,650	854,381	学校ビデオ改訂、DVD作成、他
合 計	7,975,031	6,997,555	977,476	

諏訪清陵高校同窓会「基本財産」目録

基本財産 54,000,000円

(内訳) 定期預金 諏訪信用金庫 44,000,000円
八十二銀行 10,000,000円

平成18年度 同窓会報特別会計決算報告

(平成18年 4 月 1 日から19年 3 月31日)

収 入 額 2,387,283円
(繰越金、一般会計より繰入金、広告収入等)
支 出 額 2,258,400円
(会報32号印刷編集費、発送料等)
差引残額 128,883円
(平成19年度へ繰越)

平成18年度「清陵会館」維持会計決算報告

(平成18年 4 月 1 日から19年 3 月31日)

収 入 額 890,287円 (繰越金、繰入金、利息)
支 出 額 0円
差引残額 890,287円 (平成19年度へ繰越)

平成19年度 同窓会一般会計予算案

収入総額 8,883,633円
支出総額 8,883,633円
差引残高 0円

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増減(▼)額	備 考
前年度繰越金	1,183,633	865,031	318,602	
入 会 金	1,210,000	1,210,000	0	5,000円×242名
終 身 会 費	4,840,000	4,840,000	0	20,000円×242名
基本財産収入	120,000	10,000	110,000	定期預金利息
繰 入 金	1,500,000	1,000,000	500,000	基金より
雑 収 入	30,000	50,000	▼ 20,000	普通預金利息他
合 計	8,883,633	7,975,031	908,602	

支出の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	増(▲)減額	備 考
会 議 費	250,000	250,000	0	役員会、慰霊法要等
総 会 費	350,000	350,000	0	運営費、資料印刷代、広告代、他
旅 費	700,000	600,000	▲ 100,000	役員会、役員出張旅費
人 件 費	480,000	480,000	0	給与(事務局長)
需 要 費	100,000	100,000	0	新聞代、事務用品、他
備 品 費	0	0	0	電話料、郵送料、LCV-Net利用料
役 務 費	250,000	250,000	0	支部総会祝儀、饗別、弔電、広告代
慶 弔 費	850,000	800,000	▲ 50,000	卒業生への記念品代
記 念 品 費	200,000	200,000	0	会報(190万)、清陵会(200万)
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会館維持(5万)
基金繰出金	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,753,633	995,031	▲ 758,602	
合 計	8,883,633	7,975,031	▲ 908,602	

平成18年度 同窓会110周年特別会計決算報告

(平成18年 4 月 1 日から19年 3 月31日)

収 入 額 39,693,283円
繰 越 金 7,954,065円
名簿会計より 31,734,362円
利 息 4,856円
支 出 額 35,357,489円
三 澤 文 庫 296,225円
名 簿 13,061,264円
繰 出 金 1,000,000円 (一般会計へ)
" 21,000,000円 (基金へ)
差引残額 4,335,794円
(平成19年度へ繰越)

諏訪清陵高校OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の諏訪湖一周マラソンOB・OG大会を下記により
母校の伝統行事に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの
参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10月17日(水) 女子8時40分、男子9時スタート
2. コース スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約18km
3. 受 付 湖畔石彫公園のスタート地点 午前7時30分より
ゼッケン受取り後スタート地点へ 終了後懇親会
4. 参加費 3,000円
5. その他 健康診断もお忘れなく、雨天の場合受付時に判断

清陵湖周マラソンOB会

会 長 牛山 孝 (59回)
問合先 原 英充 (65回) Tel 0266-58-3547
会 計 唐沢千明 (76回)

清陵高校クラブ後援会（3者）会計報告（PTA・同窓会・学友会）

平成9年度にPTA・同窓会・学友会により結成された「清陵高校クラブ活動後援会」も発足以来10年経過しました。同窓会においては会員各位のご理解を得る中、この10年間に2496万円の援助を頂いてまいりました。

平成18年度は、地区予選会を始め、122の大会に延べ2400名の生徒が“清陵”の名を背負って参加し、頑張ってまいりました。

中でも、北信越大会には、陸上部、端艇部、水泳部、ソフトテニス部、スケート部が、また、全国大会には、陸上部、端艇部、スケート部、古典ギター部、かるた同好会、書道部が出場し、陸上の400mで全国3位、古典ギターでは優秀賞・朝日新聞社賞の受賞など栄誉ある成績を収めました。

また、全国規模大会での活躍に対し、複数のクラブが長野県教育委員会から表彰されました。

一方、夏の集中豪雨災害により、野球部を始めいくつかのクラブが練習場確保に苦しみ、練習不足のまま大会への出場を余儀なくされたところであります。

その他、各種大会に参加するための生徒遠征費や校外の施設を使用することによる施設使用料に対する補助も実施いたしました。

なお、既に各クラブ・同好会とも前年以上の成績を目指して部活動に入っており、引続き絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年度 クラブ活動後援会（3者）会計決算

収入総額	10,200,090円
支出総額	10,096,384円
差引残額	103,706円

収入の部（単位：円）

科 目	予 算 額	収入済額	比較増減
繰 入 金	7,960,000	7,960,000	0
県等補助金	1,008,000	1,177,000	169,000
雑 収 入	915	32,005	31,090
繰 越 金	1,031,085	1,031,085	0
合 計	10,000,000	10,200,090	200,090

支出の部（単位：円）

科 目	予 算 額	支出済額	比較増減
生徒遠征費	6,300,000	7,048,071	△748,071
大会参加費	1,480,000	1,464,400	15,600
登 録 料	800,000	750,090	49,910
施設使用料	1,200,000	738,640	461,360
事 務 費	20,000	525	19,475
予 備 費	200,000	94,658	105,342
積 立 金	0	0	0
合 計	10,000,000	10,096,384	△96,384

清陵高校クラブ活動同窓会後援会への入会のお願い

平成9年度定期総会において「母校の全てのクラブ・同好会に関して、母校を代表して各種大会等へ出場する場合の生徒遠征費等を支援すること」を目的に標記の後援会が発足しました。（平成9年発行『会報』第23号参照）

平成13年度まで（第1次・5年間）に1,704名から協力（入会）を頂きました。引き続き平成14年度から5年間（第2次・5年分を一括して10,000円）でも『会報』発送の都度、郵便振替用紙を同封して協力をお願いし、別表の通り1,701名の協力を頂きました。その結果、平成14年度に224万円、15年度に276万円、16年度に250万円、17年度に243万円、18年度に259万円を後輩へ援助することができました。ご協力ありがとうございました。

尚、平成18年度の定期総会において母校からの要望も踏まえて、この「クラブ活動同窓会後援会」の継続が承認されました（第3次・平成19年度から5年間）。就きましては、この

『会報』に会費（5年分・10,000円）の「払込取扱票（郵便振替用紙）」を同封致しました。

後輩の為に是非ともご協力を重ねてお願い致します。

ご送金方法

- ◇同封の郵便振替用紙でお願いします。（手数料無料）
- ◇ご都合で5年分一括でない場合は金額を訂正し捺印して下さい。（1年分以上何年分でも結構です）
- ◇銀行振込の場合は下記口座へお願い致します。手数料はご負担頂ければ幸いです。

（宛先）八十二銀行諏訪支店 普通 689-629

諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944

※銀行振込の場合は差出人のフリガナ欄に必ず回を書いてからお名前をご記入下さい。（例「74 セイリョウ タロウ」）

平成18年度諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会会計決算報告 （平成18年4月1日～平成19年3月31日）

収入総額	6,884,393円
支出総額	2,644,705円
差引残高	4,239,688円（平成19年度へ繰越）

収入の部（単位：円）

科 目	収入済額	備 考
繰越金	4,571,167	前年度より
会 費	2,309,600	235名
繰入金	0	定期預金取崩し
雑収入	3,626	預金利息
合 計	6,884,393	

支出の部（単位：円）

科 目	収入済額	備 考
拠出金	2,590,000	学校後援会へ
需要費	54,705	振替用紙印刷代
合 計	2,644,705	

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会基金（単位：円）

（平成19年3月31日現在）

種 類	預入先	金 額	利 率	期 間	満 期 日
期日指定定期 単利	諏訪信用金庫	3,000,000	0.350%	364日	平成20.4.2
"	"	1,400,000	"	"	"
合 計		4,400,000			

クラブ後援会学年別会員数 H.14.4.4～19.3.31 会員数：1,701名

回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数
25	1	39	21	52	51	67	17	80	16	93	10	106	24
26	1	40	19	55		68	25	81	12	94	6	107	14
28	3	41	26	56	68	69	39	82	10	95	11	108	11
29	2	42	33	57	52	70	33	83	16	96	4	109	10
30	4	43	16	58	63	71	21	84	12	97	10		
31	7	44	30	59	59	72	22	85	13	98	8		
32	3	45	28	60	64	73	25	86	9	99	11		
33	4	46	37	61	35	74	9	87	7	100	12		
34	3	47	44	62	31	75	14	88	9	101	4		
35	16	48	34	63	37	76	15	89	7	102	10		
36	17	49	57	64	32	77	18	90	10	103	14		
37	17	50	65	65	30	78	12	91	6	104	21		
38	17	51	35	66	26	79	14	92	13	105	29		

クラブ後援会会員ご芳名 (敬称略)

以下の名簿は平成19年4月1日現在、クラブ後援会会費期限5年分をお振り込みくださっている方々です。19年3月31日をもって期限を経過された方を含めて、同窓会会員の多くの方々の新たな会費納入をお願いします。

25 古山 二郎	39 石 倉 勇	42 宮崎 節生	46 齊 木 堯	49 笠原 正道	51 唐木 嘉美
29 今 井 功	39 大宮 直治	42 宮沢 俊朗	46 篠原 昭登	49 神取 保明	51 熊谷 和雄
30 酒 井 孚	39 田中 夏樹	42 矢崎 正彦	46 滝 沢 潔	49 桑 原 茂	51 小 林 猛
30 中島 和市	39 田村 邦雄	42 山田 藤雄	46 田中一太郎	49 小泉 辰郎	51 小松 袈伴
30 中 山 亘	39 茅野 和雄	42 横山 榮良	46 田中 吉泰	49 後 藤 隆	51 酒井 和悦
30 柳平 米秋	39 永井 俊夫	43 青沼 武樹	46 千野 貞夫	49 白鳥 貞幸	51 佐藤 光義
31 小尾 郊一	39 中島 邦一	43 今井五十二	46 長谷部五郎	49 代田 繁夫	51 塩澤 秀登
31 笠原 満雄	39 永田 暢男	43 牛山 定雄	46 平林 稔里	49 高田利之助	51 進藤 八郎
31 北澤弥吉郎	39 藤森 幹夫	43 小川 一吉	46 平山 修三	49 田 中 讓	51 曾根原勇夫
31 宮坂 水穂	39 三 輪 恒	43 北村 勝郎	46 古屋 一男	49 千野 陽造	51 田中 秀夫
31 矢島 茂弘	40 岩波 重吉	43 志賀 平昇	46 増澤喜美夫	49 土田健次郎	51 長田 重美
32 立木 長俊	40 菊池 武徳	43 中西 克巳	46 矢崎 正夫	49 林 昭 男	51 林 将 雄
33 河西 正教	40 五味 敏高	43 根津 晴之	46 矢花 慎雄	49 林 忠 男	51 平 出 進
34 伊藤 寅視	40 田中 宗和	43 樋口 國男	47 浅川 孝典	49 林 徹	51 藤原 健一
34 原田 文吾	40 中村 一彦	43 松本 文彦	47 今井 一之	49 平林 章作	51 堀内 昭八
35 大宮 一朗	40 野口 朝一	44 伊藤 裕人	47 小口 信吉	49 藤澤 睦雄	51 宮坂 武男
35 金子 定正	40 林 卓 郎	44 伊藤 善光	47 久保田泰正	49 藤森 昌美	51 矢 島 孝
35 小林翰詩郎	40 林 武 志	44 岩波 篤雄	47 倉島 武男	49 増澤 國泰	51 柳平 直明
35 島田 俊郎	40 松沢 一夫	44 上田 達雄	47 小池 康一	49 松木 庄師	51 横 川 端
35 竹村 元雄	40 松 沢 弘	44 江口 秀男	47 小 林 繁	49 宮下 幾藏	52 味沢 正治
35 中山 久吉	40 宮坂伊兵衛	44 小口 哲男	47 小 松 誠	49 向山 幸男	52 伊藤 公夫
35 原 親 夫	40 宮坂 宥勝	44 小口 成人	47 下平 政信	49 両角 俊美	52 牛尼 俊樹
35 増沢 一男	41 伊藤 博之	44 河西 謙一	47 茅野 茂治	49 山 崎 詮	52 浦 野 実
35 宮坂 広雄	41 小 島 馨	44 片倉 久夫	47 土田 富次	50 依 田 武	52 大和 節雄
35 宮 坂 弘	41 小松 三郎	44 川村 博俊	47 中村 三吾	50 天野 力夫	52 荻上 泰男
35 矢崎 秀彦	41 小松 正弘	44 五 味 誠	47 浜 昭 夫	50 有 賀 裕	52 小野 泰策
35 渡辺 長雄	41 小松 益美	44 高波 勝郎	47 浜 哲 郎	50 伊藤 好穂	52 笠原 邦三
36 伊藤 治夫	41 三枝 正治	44 田 中 薫	47 林 武 志	50 柿澤 重喜	52 金松 正也
36 上原 利雄	41 武 井 尚	44 新村 恒雄	47 林 義 一	50 唐澤 重雄	52 金子 信也
36 大岡 章吾	41 勅使河原一	44 保延 道夫	47 原 尚 道	50 北沢 秀男	52 北原 幹雄
36 小口 達美	41 野澤 清志	44 原 敏	47 藤森 正隆	50 小平 正雄	52 小松 寛光
36 窪田十寸穂	41 浜 亥三男	44 山 田 清	47 保科 正澄	50 小林 重治	52 下村 幹夫
36 小早 信一	41 林 慧	45 市原 伸能	47 宮坂 和宏	50 駒 井 進	52 白川 太一
36 田中不二男	41 増澤 康正	45 伊 藤 彦	47 矢島 廣人	50 小松 正裕	52 関 裕 安
36 原 孝	41 三 井 全	45 井 上 準	48 伊藤 恒好	50 鈴 木 孝	52 田 上 明
36 原 田 孝	41 宮沢 七郎	45 今井 保穂	48 伊藤 芳明	50 関 伊 助	52 田中 敏夫
36 吉江 住次	41 柳澤 和夫	45 小泉 善一	48 川北 利雄	50 関 舜 二	52 田中 正利
37 飯島 重孝	41 柳澤 武康	45 小 平 恭	48 小池 岩雄	50 武井 秀夫	52 土橋 光廣
37 牛 山 励	41 柳澤理一郎	45 五味 良秋	48 小 池 賢	50 中村 脩一	52 友 野 弘
37 金井 正次	42 青 木 宏	45 坂田 清次	48 小 島 宏	50 波多野里望	52 中村 繁之
37 関 廣 視	42 飯沢 平臣	45 下島 邦弘	48 後藤 一輔	50 平林 昭夫	52 波多 秀夫
37 田中 克郎	42 伊東 清博	45 高 木 満	48 酒井 雅義	50 藤森 千弘	52 浜 一 栄
37 藤森 要吉	42 小口 國夫	45 野口 金仁	48 関 保 弘	50 舟岡 正男	52 平 沢 繁
37 細田 貴助	42 小口 信	45 花岡 季彦	48 永由 利弘	50 降幡 和人	52 藤澤 昭
38 伊東 義人	42 小口 尚弥	45 林 淳 平	48 平 島 昭	50 松崎 元博	52 藤森 克男
38 大澤 一雄	42 河西 計介	45 原藤 卓郎	48 堀川東洋男	50 宮坂 弘三	52 藤森 三朗
38 北原 文雄	42 金 子 岨	45 藤森 弘國	48 溝口 章夫	50 宮坂 義彦	52 藤 森 昇
38 北原 次良	42 川村 雅俊	45 増澤 文夫	48 宮坂 知夫	50 宮坂 力夫	52 古畑 秀夫
38 後藤 直人	42 黒河内三郎	45 宮 坂 裕	48 両角 喜作	50 三輪 尚文	52 三枝 健男
38 小松 雅雄	42 小松 眞一	45 柳澤 英次	48 両角 傳郎	50 村上 賢次	52 溝 口 甫
38 立木 正純	42 小 松 誠	46 赤羽 三衛	49 青島 一郎	50 本倉正一郎	52 宮坂 和茂
38 花岡 和夫	42 小宮山 実	46 今野 広久	49 今井 堯夫	50 矢島圭一郎	52 宮 坂 貞
38 樋口 安久	42 征矢 修一	46 岩波 嘉郎	49 上原 秀秋	50 柳澤 惟一	52 村 田 實
38 藤森 千史	42 錦見 高弘	46 小口 祐利	49 植松 芳彦	51 吉 田 守	52 吉澤 鶴久
38 前田時太郎	42 藤 森 正	46 大和 武美	49 牛山 精一	51 牛山満喜司	52 米澤 朝宗
38 武川 忠一	42 溝口 勝弘	46 小林龍太郎	49 小河原竜太郎	51 小口 一郎	55 牛 山 一
38 八幡 栄一	42 宮坂 正一	46 小松 五郎	49 小 沢 裕	51 金子 隆一	55 西澤 賢一

56 石森美代子	57 樋口 祐三	59 伊東 立生	60 関 輝 雄	62 山田 紀子	65 浜 正 徳
56 市川 兼三	57 日野 喜之	59 上原 寿雄	60 給田 英哉	63 有賀 朝彦	65 原 英 充
56 伊藤 安幸	57 牧 庄 一	59 牛 山 孝	60 高木 祥勝	63 有賀 一夫	65 藤森 邦秀
56 伊東 雄三	57 増澤 良夫	59 大久保数万	60 田中 拓二	63 小口 哲二	65 細田 正昭
56 大橋 博康	57 溝口 藤雄	59 小川 邦夫	60 轟 道 彦	63 尾澤 弘久	65 御子柴 弘
56 小川 明人	57 宮阪 章三	59 小 口 剛	60 永田 郷雄	63 河西 武彦	65 宮坂 孝康
56 荻原 能男	57 宮澤 功吉	59 春日 清弘	60 中村 勝一	63 笠原 政樹	65 宮沢 健一
56 小口 勝次	57 矢嶋 民雄	59 金子 政喜	60 名取 正富	63 金 井 修	65 柳沢 共榮
56 河西 敏雄	57 山田 辰雄	59 北川 廣紀	60 野竹 虎夫	63 鎌倉 了	65 山崎 享子
56 春日 朝雄	57 山田 睦夫	59 桑原 敏次	60 花岡 征男	63 河合 信也	66 今井 英雄
56 神山 幸雄	57 横内 茂	59 後町 廣志	60 浜 勝 彦	63 北 原 實	66 岩波 将武
56 北原 良郷	57 横田 健次	59 小林 邦明	60 原 俊 安	63 小 平 協	66 上原 秀樹
56 小 池 寛	57 渡邊 道隆	59 小 松 守	60 平林 國男	63 小松 廣茂	66 小 口 治
56 小 松 茂	58 赤羽 正臣	59 五味 洋一	60 藤 森 弘	63 須沢 允晴	66 河合 三彦
56 五 味 晟	58 伊藤 彰彦	59 古村 憲資	60 二 木 隆	63 高本 義雄	66 北原 東一
56 酒井 利男	58 伊藤 長城	59 内藤 好昭	60 堀 晃	63 竹本 正行	66 小 松 洋
56 下平 勝幸	58 今井 敏夫	59 中川 良平	60 増沢 豊久	63 田中 祐昌	66 佐藤 武夫
56 杉山 賀丸	58 今井 正喜	59 中島 伸一	60 丸茂 敬昌	63 鶴巻 健彦	66 角川 征男
56 田中 泰次	58 岩佐 時雄	59 長瀬 价美	60 宮坂 茂作	63 中村 詔行	66 徳永 忠次
55 土田 博敏	58 牛 山 敏	59 長田 邦平	60 宮澤 政文	63 中村 好邦	66 常田 信行
56 土橋 平治	58 江黒 泰生	59 永田 弘幸	60 柳沢 忠志	63 藤森 宏一	66 中島 万揮
56 戸田 哲夫	58 大西 暲三	59 中 山 篤	60 吉山 善博	63 保科 公郎	66 原 護
56 友吉 瑛子	58 小口 隆三	59 中山 二彦	61 市川 澄渡	63 宮坂 尚利	66 丸茂 雅弘
56 中 村 宏	58 小 口 正	59 名取 孝三	61 太田 龍朗	63 山田 善彦	66 宮島 忠之
56 濱 和 彦	58 小澤 吉郎	59 浜 二三男	61 小川 文啓	63 横山 嘉一	66 米窪 修明
56 藤井 真之	58 小野 寿勇	59 林 芳 江	61 小口 智也	63 吉 田 紘	67 岩波 賢治
56 降幡 照子	58 上 條 衛	59 原 宏 一	61 河西 康次	63 吉原 千文	67 岩間大和子
56 保科 正明	58 木之下 晃	59 堀内 敏宏	61 片桐 清男	64 海野光三郎	67 落合 勝彦
56 堀田 俊夫	58 久保 幸彦	59 松 沢 亮	61 金子 光広	64 小口 寿夫	67 小池 光二
56 堀川 尚武	58 熊 谷 致	59 丸山 茂夫	61 川村 昌平	64 小口 博義	67 武居 哲彦
56 松見 佳樹	58 河野瑳智子	59 宮坂 眞嗣	61 小林 長吉	64 垣 内 直	67 中島 永人
56 宮 沢 勝	58 小林 仁一	59 宮沢平八郎	61 薩摩林 正	64 河 西 昭	67 林 武 昭
56 宮下 敬三	58 小林 常晃	59 矢崎 邦彦	61 下枝 晴彦	64 片 野 通	67 藤井 光子
56 宮 本 卷	58 小林 英雄	59 矢崎 豊国	61 辛 京 碩	64 木川 史弘	68 赤羽 貞幸
56 望 月 均	58 小林由喜夫	59 山崎 雄二	61 寺島 健司	64 久保田邦一	68 有賀 良夫
56 守矢 徹生	58 小松 敏郎	59 山 田 潔	61 中村 隆一	64 杉浦 信剛	68 伊藤 重利
56 矢島 孝次	58 小松 英夫	59 山本 禧興	61 名取 義雄	64 武井 省吾	68 牛山 和義
57 天野 丈久	58 五味 康躬	60 赤羽 英勝	61 小林 五郎	64 竹入 勝昭	68 小口 和男
57 今井 恒夫	58 齋 藤 寛	60 池場 康友	61 早川 次彦	64 竹内 俊文	68 小沢 俊康
57 岩 垂 弘	58 坂戸 邦年	60 石 川 勝	61 丸茂 和夫	64 千野 眞士	68 大和 一男
57 大井 利夫	58 鈴木 保男	60 一ノ瀬五十志	61 宮 沢 健	64 長 島 潔	68 春日 昌明
57 岡 田 茂	58 鈴木由美子	60 伊藤 武郎	61 矢 島 穆	64 濱 齊	68 計良 健一
57 小口 章夫	58 瀬戸 徳一	60 牛山 圭吾	62 青木 孝弘	64 平林 和夫	68 小 平 貢
57 大和 一昭	58 田中 得一	60 小川 浩史	62 朝比奈茂吉	64 増木 喜光	68 小林 史宜
57 片倉 新平	58 長坂 省治	60 加々見和好	62 飯田 莊象	64 宮 沢 勇	68 小松 順一
57 小池 成芳	58 名取 清次	60 河西 善実	62 大西 高司	64 山 岡 稔	68 小 松 喬
57 小林 晋作	58 林 善八郎	60 笠原 三蔵	62 上原 俊春	64 山田 勝俊	68 佐々木建一
57 小林 俊光	58 林 秀 剛	60 笠原 文武	62 小林 国利	65 赤羽 征雄	68 武井 正文
57 小 林 宏	58 樋口 敏夫	60 鎌倉 眞文	62 塩澤 瑞人	65 今井 忠雄	68 花岡 枉好
57 小林 正春	58 堀田 裕人	60 河 角 堅	62 瀬 木 潔	65 岡村 昭治	68 藤森 富雄
57 五 味 乙	58 宮坂 栄治	60 菊池 敏一	62 瀧澤 盛夫	65 笠原 重治	68 古 河 仁
57 白 田 充	58 宮坂喜代司	60 北原 本夫	62 中島 澄雄	65 春日 芳夫	68 宮 原 功
57 高橋 長幹	58 宮坂 健二	60 久保田一夫	62 中 村 勉	65 小林 治雄	68 宮原 友保
57 武井 榮一	58 宮 坂 毅	60 窪田 作栄	62 永由 俊二	65 進藤 瑞穂	68 向山 智郎
57 武居 伸一	58 両角 正治	60 小 林 光	62 浜 武 秀	65 田中 勝一	69 一ノ瀬輝海
57 立石 邦久	58 山田 照雄	60 小 松 董	62 平林 哲夫	65 中田 公人	69 上原 直樹
57 田 中 高	58 吉 田 嵩	60 五味 弘行	62 藤森 郁男	65 中 野 明	69 小口眞紀雄
57 塚原 重雄	59 飯田 力也	60 笹岡 拓雄	62 堀 浩 泰	65 西沢 巻夫	69 小口 牧通
57 土橋 健夫	59 伊藤 鴻介	60 進藤 勝美	62 増澤 廣志	65 浜 一 吉	69 笠島 信明
57 永由 直登	59 伊藤 忠三	60 進藤 聖士	62 宮坂 博通	65 浜 裕 幸	69 古原 正之

69	小松 郁俊	72	津金 省吾	78	北澤幹一郎	85	伊藤 孝一	97	市川 壮一	105	三澤 康弘
69	権 東 明	72	土橋 和男	78	桑 原 誠	85	北澤 弘行	97	伊藤 智章	106	岩下 弘樹
69	武居 文夫	72	中村 茂幸	78	小松 一俊	85	北 原 武	97	今井 英生	106	牛 山 聡
69	茅野 勝彦	72	林 博 昭	78	堀内 悦子	85	五味 高義	97	藤 森 綾	106	牛山 孝夫
69	茅野 泰幸	72	御子柴 均	78	矢 島 修	85	斉藤 美穂	97	小池 春香	106	笠原 鏡平
69	津金 正典	72	山下 久盛	78	芳沢 範朗	85	杉 本 勉	97	山下 将国	106	上柳 雅史
69	中田 典昭	72	山田多美枝	79	飯 田 良	85	立花 美香	98	上條 克訓	106	小松 嵩宙
69	比田井昌英	73	マディーン啓子	79	伊藤 幾文	85	長田 里美	98	後藤 孝史	106	小松 真之
69	松澤 睦司	73	遠 藤 茂	79	岡 しおり	85	平出 健一	98	矢沢 恵一	106	清水 奈緒
69	真野 恒夫	73	小口賢治郎	79	小口 修平	85	藤森 秀彦	98	山田 泰寛	106	征 矢 大
69	三澤 基孝	73	小池 将修	79	河西 一彦	85	山 田 宏	98	山 本 睦	106	武井 友史
69	宮坂 幸芳	73	鳥羽 研二	79	川辺 栄一	86	伊藤 久人	99	青木 大輔	106	鳥山 裕美
69	宮部 直幸	73	長田 博文	79	五味 弘文	86	今井 昭徳	99	笠原久美子	106	中村英理子
69	両角 幸雄	73	原田 和郎	79	高砂 幸人	86	杉本 一美	99	小松 正彦	106	名倉 裕介
69	柳平 三雄	73	松木 敏博	79	竹 村 潔	86	高橋みゆき	99	渡辺 陽子	106	橋本陽一朗
70	石田 宗義	73	宮坂 和生	80	藍 郷 崇	86	辻 清 隆	99	座光寺伸治	106	平田 孝輔
70	一ノ瀬順市	73	宮沢 三幸	80	小口 智弘	86	土屋 治彦	99	高木 希奈	106	藤森 智矢
70	牛山 寛俊	73	向山 博志	80	織田 吉夫	86	原田 正明	99	中村 美咲	106	古川 綾一
70	小口 卓男	73	山口 和夫	80	北沢 靖久	87	笠 原 進	99	野口 真也	106	壬生由希子
70	加藤 隆夫	73	山田 雄一	80	桑澤 二郎	87	藤森 伸也	99	和田香奈子	106	宮坂 宥憲
70	蒲地 整志	74	北原 嘉泰	80	佐々木康夫	87	柳 澤 泰	100	朝倉 宏典	106	宮澤 亜弓
70	香 山 寛	74	小 池 勇	80	征矢寿美子	88	小平 明代	100	今井 茂樹	106	三好 吉起
70	北原 道雄	74	高木 健治	80	武居 光雄	88	小 林 大	100	五味 泰史	106	伊藤 広幸
70	倉田 文秋	74	濱 健 夫	80	藤澤 英治	88	伊東みゆき	100	浜 裕 之	107	伊藤 優美
70	河野 文光	74	矢崎 智義	80	溝 口 到	88	増澤 浩一	100	松本加奈子	107	大森 彩子
70	小平 光治	75	有賀 文彦	80	矢島福太郎	89	植松 秀生	100	村 上 豊	107	川邊 美奈
70	小林 和男	75	大石 秀之	81	大滝 祐吉	89	小又 一宏	100	吉江 将之	107	久保美和子
70	小林 金好	75	栗林 利治	81	笠原 直子	89	佐々木久和	101	小林 高大	107	呉本里恵子
70	佐久 信雄	75	田中 富久	81	小 松 隆	89	関 淳 一	101	松倉 良介	107	小松 佑介
70	清水 英俊	75	土 田 豊	81	篠遠 秀樹	90	新井 直子	102	小林 万真	107	曾我 将宏
70	竹森 公男	75	細田 直史	81	中野 則雄	90	安達 瑞恵	102	小林 克史	107	登 内 瞳
70	浜 正 一	75	宮下 和彦	81	橋爪 俊明	90	小河原綾子	102	小林 利枝	107	中村 彩乃
70	波間 洋一	76	石井 和夫	81	矢島 俊樹	90	小河原一浩	102	五味 花子	107	西隈 俊光
70	藤森 廣幸	76	川 上 孝	81	山田 雅彦	90	坂口 みほ	102	永嶋 宏和	107	花岡 美智
70	増沢 孝直	76	小池 康博	82	伊藤 正三	90	濱 かおり	102	横内 友祐	107	花岡 有香
70	村上 和男	76	小平 憲良	82	内山 茂晴	90	両角 博志	103	大 槻 寛	107	宮 坂 裕
70	矢島 芳明	76	龍岡 達子	82	小野 隆吾	91	上原 綾子	103	越田 真二	107	吉 澤 梓
70	横内 文雄	76	中島 真一	82	関 克 徳	91	Karlicekさやか	103	小林 由佳	107	渡邊 香織
71	伊藤 洋一	76	林 友 則	82	宮 坂 誠	91	高田 佳彦	103	武井 佳子	108	朝貝亜寿沙
71	小川 隆平	76	細川 信明	82	宮下 文利	92	今井 宗泰	103	竹村 信彦	108	梅澤 宏企
71	奥山 秀人	76	山 岡 恵	82	村松 健敏	92	笠原 健一	103	長田みさき	108	北出 一樹
71	小 澤 実	76	堀 内 哲	83	小野 博正	92	新村 克英	104	今井 祐子	108	小松 雅宙
71	加藤 博明	76	松田 昌幸	83	菅沼 昭彦	92	藤森 伝太	104	小林 真実	108	竹澤 秀和
71	窪田 昭男	76	矢崎 敏臣	83	関 聖	92	望月 一弘	104	津金 陽一	108	竹村 章子
71	磯野 康子	76	渡 辺 修	83	新沢みどり	92	山 田 修	104	丸 山 徹	108	中村 好絵
71	五味 常明	77	岡崎 芳次	83	羽田 俊彦	93	野明 三枝	104	宮 坂 寿	108	平出恵利華
71	近藤 知雄	77	長田 正名	83	松崎 任宏	93	草間 茂樹	104	宮坂留理香	108	宮澤まどか
71	清水 可方	77	春日 敏彦	83	矢島 欣直	93	小林 雅典	104	山田 晴子	108	山田 恵介
71	新 藤 保	77	金子 恵子	83	山崎 泰三	93	林 充 彦	104	若林あゆみ	108	渡 邊 亮
71	竹 内 一	77	北 原 修	84	赤羽 武弘	93	柳 平 等	105	赤羽 宏文	109	安藤ゆずる
71	津金 広幸	77	小林 初彦	84	赤羽 俊昭	94	巻島 かよ	105	小澤 真人	109	牛山さゆり
71	松澤 祥司	77	小松 正彦	84	今村 祐子	94	島田 輝彦	105	倉田 修治	109	川邊 直紀
71	宮坂 久夫	77	五味 崇行	84	小口 理子	94	山田 貴久	105	小林 大悟	109	小 池 慎
71	宮下 信市	77	武居 丈二	84	金子 忠昭	95	鮎 沢 学	105	関 智恵美	109	武井 洋史
71	横内 保美	77	土橋 一郎	84	具 保	95	行 田 充	105	征矢 良子	109	原 耕 平
71	吉 池 正	77	長田美保子	84	小池久美子	95	斎藤 泰史	105	竹井 卓哉	109	吹附 綾乃
72	市村 敏夫	77	林 理 之	84	田中 麻恵	95	高山 美歩	105	茅野 大祐	109	藤 澤 秀
72	熊崎 秀和	77	平出 美彦	84	西川 俊夫	95	中島 規貴	105	長谷川 潔	109	山崎 将一
72	小泉 悦夫	77	牧内 敬英	84	原藤 健紀	95	山本 瑞己	105	蜂谷 匠子		
72	竹村 文男	78	金 光 泉	84	平林 和之	97	池 上 実	105	堀 浩 之		

支部活動報告

関西支部 事務局 吉澤 啓介

関西支部では、前年の役員会で審議した、活動報告と当年度の活動計画を総会に提案し、具体的活動は4部会（ゴルフ、歩こう、カルチャー、会報）が担当して行うこととしています。

第9回総会（18.2.11）は、会員、家族合わせて54名が出席して開催しました。内容は、サロンコンサート（フルート演奏）、総会、立食パーティと例年どおり。

18年度活動報告

- ・ゴルフ部会－コンペを2回（春秋）開催した。
- ・歩こう会－奈良女子大坂本教授の案内で「斑鳩の里－1」を6月に歩いた。
- ・秋の「斑鳩の里－2」は豪雨のため中止した。
- ・会報部会－総会での挨拶（林尚孝会長、関哲夫校長）と活動報告、活動計画と、会員からの投稿、かつて関西支部におられ活動にも参加された、高橋文利元下諏訪町長の追悼記事も載せ第9号を発行（18.5.1）した。第10回総会にご出席頂けない林尚孝会長からのメッセージと、総会案内を内容として会報第10号を発行（18.12.20）、270名に送付した。
- ・役員会－総会に提案する内容を協議した（18.11.18）。

19年度活動計画

第10回支部総会

19年2月24日に阪神グリーンルームで開催する。
プログラムは、サロンコンサート（ヴァイオリン独奏）、総会、立食パーティと、例年どおり。今回で勇退される河西計介支部長の後任について協議し、上島 武氏（57回生）を新支部長として総会に提案することになった。

東京支部（東京清陵会）

平成18年度総会を、例年通り10月第3金曜日（20日）アルカディア市ヶ谷にて、母校より古原校長先生、林尚孝同窓会長はじめご来賓をお迎えし、73回生の担当で開催した。ここ2、3年減少傾向にあった出席者数も200名を超え盛会であり、今年度は役員改選期に当り、新事務局長平林千春さんへの交代と小川勝嗣会長以下全役員の留任を決議した。懇親会では年次を超え交歓し談笑する輪が広がり、締めは壇上の74回生の音頭とともに全員で校歌を声高々に大合唱し、散会した。10月28日には、女性の会を中心とした講演会を開催し、8月に100回目を迎えた有志による清陵勉強会は、新しい世話役により継続することになった。

懸案であった財政問題は、新たに導入した賛助金制度に多くの会員の協力があり、一息ついたものの会費の納入状況は低調であり、引き続き納入促進が課題である。

東海支部

2月24日、JR名古屋駅近くの「舞鶴館」で、第24回支部総会を開いた。24人が出席、昨年度から提唱している女性会員を含めた新会員勧誘などの報告を了承した。現在は2人の入会にとどまっている。東京から来賓として馳せ参じた生越万理子副会長から、女性勧誘の苦労話などを聞いた。所用で欠席された古原正之校長からは母校の実態報告などのメッセージが寄せられ、岩田昌久支部長が代読した。会計報告などの後懇親会に移り、自己紹介や校歌の斉唱で盛り上がった。

総会に先だって内外の関係者から専門分野などの講演を聴くのが慣例。今回は『鳴外の秘められた恋』の著書がある来賓の林尚孝同窓会長から同名の話を伺った。

北信支部 唐沢 紀彦

下記の通り支部総会を盛大に開催いたしました。

1. 日 時 2007年2月16日（金）午後6時
2. 場 所 ホテル国際21本館1階[藤の間]
3. 参加者 47名（北信支部会員数237名）
4. 来 賓 林 尚孝同窓会長 古原 正之学校長

当日は、林会長から最近の活動状況、古原校長先生より、スーパーサイエンススクール等の活動状況についてお話しがありました。

また、茅野支部長より、次年度の活動として、戦争等について（テーマは未定）のシンポジウムを開催する予定である旨、報告がありました。

松本支部 報告者 山田巻義（事務局担当常任幹事）

平成19年3月4日（日）15：00から松本東急インにて定期総会を開催。出席会員18名、来賓として本部より林会長・母校より古原校長先生ご出席。来賓のご挨拶及び同窓会・母校の近況等説明を得た後、議事に入る。

会務報告・会計報告に続き、任期満了に伴う役員改選を行い、体調面から退任の申し出があった千代 務氏（58回生）を除き藤森支部長以下4名が留任。その他として、支部の現状を概略説明し今後活性化策を検討していく事とする。支部会員名簿も、同窓会名簿を元に改編する。（配付範囲は別途検討）

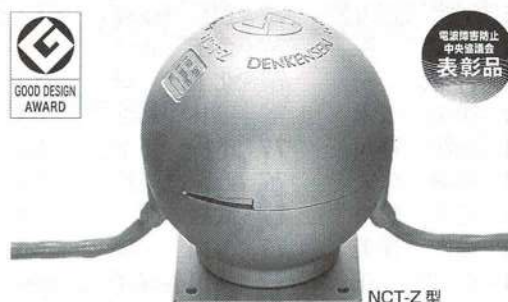
続いて林会長に【第一校歌と寒水・伊藤長七】の演題で、その逸材ぶり・校歌が出来るまでの経緯等を伊藤氏の年譜と合わせて講演いただき感動。

懇親会に来賓を含め19名の出席となり、近況報告・趣味特技等の披露など和やかに交流、支部長の音頭で校歌第一・第二を18番全て斉唱して締めくくった。

最先端技術にはロマンがある

理想を追求した **ノイズカットトランス**

ノイズ障害防止の切り札で、近未来に先駆けるトランス型ノイズ防止素子です。



NCT-Z 型



高度情報化社会のアクセシブルな不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす
株式会社 電研精機研究所
創業者（工博）矢ヶ崎昭彦（47 回）

本 社：〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21 TEL 042-473-3745(代) FAX 042-474-0613
大阪営業所：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5プロスペリタ四ツ橋 TEL 06-6538-1118(代) FAX 06-6538-2777
ノイズトラブル相談室 ノイズトラブルに関するご相談・調査・技術援助等を受けます。 URL <http://www.denkensei.co.jp/>

上伊那支部 支部長 荻野 浩

当支部では春爛漫の4月24日(日)、たつのパークホテルにて母校より古原学校長、同窓会本会より林会長をお迎えして開催し、懇親を深めました。

来賓のお二方より、母校におけるそれぞれの近況をお話していただき、改めて母校への思いを新たにしました。また、記念講演では80回生で一級建築士の福島正寿氏に「建築士の役割ー建築構造計算について」と題し講演していただきました。丁度耐震問題が社会問題化しており、時宜を得て大変有意義でした。

また、質疑の中で最近当支部の地域から母校への入学者が減少していることがとり挙げられました。確かに数年前までの毎年十数名の入学者が、ここ数年は一桁となってきました。その原因は生徒数の減少、学区制や通学条件など複雑ですが、当面JR東日本支社へ朝の直通の通学電車の増発を要請いたしました。

支部長： 荻野 浩 (57回)

副支部長： 伊藤隆一 (58回)

幹事長： 大森尚人 (68回)

幹 事： 林 靖 (62回) 勅使河原明英 (66回)

橋本実樹 (83回) 福島正寿 (80回)

岡谷支部 支部長 鮎沢 茂登

支部長 鮎沢茂登 (59回)

副支部長 宮坂照彦 (60回) 佐原一誠 (64回)

花岡柊好 (68回)

事務局〒394-8611岡谷市郷田2-1-8

諏訪信用金庫内土橋和彦 電話0266-23-4567

活動内容

- ・同窓会事業への参加促進
- ・支部総会及び本部総会参加促進
- ・支部総会参加者95名(39回生～103回生)

約2時間の懇親会は、村上深アマ本因坊の活躍の様子や、NPO法人霧ヶ峰基金の話、岡谷市出身の同窓生の消息などで盛り上がり世代を越えての交流が図られた。参加者は若さと元気とエネルギーを得て、再会を約し帰路についた。岡谷支部同窓会は年々参加者が増え、楽しい集いとなっている。読売新聞本社 吉良記者による取材があり、支部総会の様子と「日本で一番長い校歌」の先輩から後輩への伝承、校歌に寄せる思いなど取材されていた。

・支部役員会 (19・1・26) 参加25人

・支部総会(19・2・21) 参加95人

・本部総会支援のためチケット配布依頼役員会開催 (18・5・22)

下諏訪支部

3月9日、平成18年度下諏訪支部総会、懇親会が開催されました。

松下本部同窓会副会長、古原校長をお迎えし、最近の同窓会の動き、学生の動向等お聞き致しました。学生の中にはさまざまな分野で突出した才能を持ち活躍している子供が何人もおり頼もしい限りと言うお話と、一方、勉強だけでなく高校生時代に得るべき人間成長という側面が弱くなっているのではという課題認識が提起され、先輩として子供たちの成長支援に関心を持ち、いかにバックアップしていくべきか改めて考える機会となりました。

今回は、45回生の大先輩から74回生まで幅広い会員が50名程集まり、学年ごとの交流や各種話題に花が咲き清陵生の元気が発揮された一時でした。

最後は、校歌第一・第二を当番幹事74回生の指揮のもと歌い切り盛会のうちに終了しました。支部では夏にも納涼会を開きビールを酌み交わし交流を深めております。

諏訪支部 支部長 石城 祐吉

恒例行事としては昨年11月支部総会を開催。約120名が集い和やかなうちに同窓生の懇親を図ることが出来ました。

同窓会は先輩・後輩が織成す縦糸と同級生・同年生が織成す横糸により、同窓生相互の絆を深め、自分達の原点たる母校に、また若く夢多かりし頃に思いを馳せ、明日への活力を得る場であれば…、と思っております。

当諏訪支部は地元と云うことで同窓生も多く、それぞれ自主的に縦に横につながり、様々な「集り」が持たれております。

従って、同窓会として特別な企画を実施するまでもなく、充分その目的は達成されている支部です。

唯、地元支部の活性化なくして、同窓会の活性化なし。

こんな自覚とプライドを持って運営に当たりたいと思っております。

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓を打って飲める酒。
大切な家族に安心してすすめられる酒。
親しい友人に胸を張って贈ることができる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届けしたいと願っています。
だから、品種や産地が分らない米は買いません。
製造工場のデイトールには徹底して



こだわります。
一〇〇%自社製造を守りぬき、
純米酒比率の向上にも力を注いできました。
創業から三四年目となる今年も、
私たちは
お客様の顔を自らの家族や友人の
顔に重ね合わせながら
美酒を醸し続けます。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ

清酒真澄醸造元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野諏訪市元町1-16

TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477 www.masumi.co.jp

茅野支部 茅野支部事務局長 北原正信(69回生)

茅野支部総会は、平成19年2月4日(日)に茅野駅前のマリオーヤル会館で開催されました。

当日は節分の行事等が開催される忙しい日程の中、林会長・古原学校長のご来席をいただき、総勢85人の同窓生の出席で盛大に開催できました。

開会に先立ち清陵鎮魂歌をバックに厳粛のうちに物故者を偲び黙祷を捧げました。続いて小川明人支部長より挨拶と来賓のご出席に対しましてお礼を述べさせて頂きました。

同窓会長林尚孝様より同窓会本部の状況、他支部の活動状況を交えてご挨拶をいただきました。また、古原正之学校長から学校の近況とご挨拶をいただきました。

諏訪清陵高校同窓会茅野支部は、予算無し、事業計画無しで、年1回総会を開催して会員の親睦を図っている会です。議事案件は以上で総会は終了です。

引き続き講演会です。当支部の記念講演は、活躍中の同窓生をお願いし、時機にあったテーマで開催しています。本年は、統一地方選挙の年でありますので、茅野市長を3期12年勤め引退を表明した矢崎和広氏をお願いしました。

矢崎和広氏は、1947年(昭和22年)ちの町生まれで、今年が還暦です。諏訪清陵高校68回生です。早稲田大学政経学部卒業、ソニーに8年間在職、昭和52年茅野市に戻り諏訪貨物自動車株式会社、他数社を経営。平成7年4月茅野市長選に立候補。初当選。現在3期目の最終年を猛進中です。昨年末、最初の市長選の公約であります、任期3期12年の信念を貫き、次期市長選不出馬を表明されました。

国・地方の財政が逼迫する中、全国の自治体に先駆けて「たくましく やさしい 茅野市」を標榜し都市基盤整備のハードのまちづくりと平行して公民協働のソフトのまちづくり「パートナーシップによるまちづくり」への転換を進めています。民間会社経営者から自治体経営者に転身し3期12年を務めての実績と感じたこと、これからのまちづくりは「地域経営」の想いでとの話がなされました。

今日のご講演が、同窓生の郷土に対する想いの刺激になり、地域の活性化に役立つことをご期待申し上げました。

引き続き懇親会にうつりました。乾杯の音頭を林会長にお願いし祝宴に入り、それぞれ近況を語り合い歓談し宴は盛り上がりしました。宴が最高潮に達したところで校歌の斉唱です。当支部には、柿沢武氏(故)(58回生)が遺されました校歌の第一・第二全文の横断幕があります。壁に掲げた校歌に向かい、若き希望に満ちた時を彷彿しました。

また来年の再会を祈念し、出席者中最年長者の北原次良氏(38回生)音頭の万歳で締めくくりました。

原支部

今期、原支部は特に活動がありませんでした。支部長さんはじめ支部会員の皆様には御迷惑を掛けて申し訳ありません。同窓会本部の御支援を頂き、新たな名簿により多くのみなさんに参加いただけるよう名簿の作成し直しなどを行いながら、活動できるよう準備を進めておりますので、しばらくお待ちいただきたいと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

富士見支部(岳陵会) 18年度支部長 内藤好昭

1. 組織の拡充：町内に在住する約200名の会員相互の交流の活発化を目ざし、三役会→地区連絡役員会→支部総会(19.2.3実施)には林同窓会長、古原学校長の出席も得て、会員も35名と例年より多くの参加を得た。総会では今後も若年・女性会員の参加を促していくことを確認した。懇親会に先だって伊藤力司(56回生)さんの「イラク戦争の行方」の講演を聞いて、懇親会に入った。最後は全員で校歌斉唱で幕を閉じた。

2. 東京富士見会との交流：18.6.3に東京富士見会の同窓会の有志と親睦ゴルフ、懇親会を持って一夕を思い出話に花を咲かせた。この交流には例年77回生の小林初彦さんが尽力してくれている。

3. 物故者への弔意：物故者に対し支部の弔旗を貸出し香典を差し上げ、支部長が弔問をしている。

4. 19年度支部役員

支部長 小池博之(63回)

副支部長 小林長吉(61回) 平出高博(72回)

事務局 川合弘人(76回)

岩手前沢牛

炭火
焼肉 ぶんや

植松 淳(74回)

下諏訪町湖浜ジャスコ横
TEL 0266-28-0180



柳澤公認会計士事務所

(株)マネジメントプラン (株)会社法研究会

公認会計士 柳澤 孝男(74回)

北原 葉子(91回)

池上 佳那(103回)

伊藤 一哉(104回)

〒391-0003 長野県茅野市本町西1-40

TEL.0266-72-5060 FAX.0266-72-5063

<http://www.yanagisawakaikei.net>



長野県知事免許(6)第3190号

株式会社 篠原不動産

代表取締役 篠原 敏(74回)

茅野市湖東8576番地1

TEL 0266-73-1900

FAX 0266-72-3103

<http://www.sino-fudosan.co.jp>

学年会短信

回	名 称	活動内容・幹事短信
35		私共35回卒業生も、よる年波90才となりました。母校80周年の寄附の折、又校舎新築の折には母校愛に燃え、全員参加を目標に頑張ってきました。ここ5、6年前からは、同級会をやっても集まれず、自然消滅の状態になっています。2、3の友人以外はお互に音信もなく、同級生の近況もわかりません。(山田六一)
38		諏中卒業70周年を迎えました。88才米寿の年にもあたり、喜びの集いをもちました。(幹事/小林克己 ☎64-2063)
40	述志会	先日、東京に在住の小尾洋介さんが、述志会(40回生の会)の消息集を作って配布してくれました。東海、諏訪の人たちも投稿して28名の消息が誌されていました。働いていたり、外に出歩くことの出来る方が20名。外にも出にくくなった方が8名でした。消息をよせられなかった方もあると思いますが、私たちの学年の方は、元気の方が少なくなって参りました。外に出にくくなった方も生き甲斐を求めて暮らしている方がおいでです。みんな頑張つて、連絡などとりながら、自分が納得できる生活を送っていききたいと思います。(幹事/加々見一郎 ☎65-3420)
41	不感会	冒頭から暗い話で恐縮。嘗て岡谷商工会議所会頭を務めた、業界の重鎮野口甫君が1月17日に他界した。享年85才。1月22日に近親者により密葬が行われ、植野忠道君、保坂健君と私が参列した。2月6日の本葬には、東京不感会を代表して小池正衛君が参列した。不感会会員は戦死を含め131名が鬼籍に入り、現存者は77名。85年と言えば長いようだが、振り返って見れば、あっという間のような気がする。人生の儚さを感じる此の頃である。不感会の諸君、健康管理に留意して下さい。亦病床にある友の回復を祈りましょう。(幹事/宮澤七郎 ☎58-0522)
45		昨年の「同窓会定期総会」には、小平恭君、五味良秋君、藤森清司君、関弥之助君と、私が出席、懇親会では青春時代を懐かしく語りあった。昨年の秋、久しぶりに唐沢山に登り阿弥陀寺に詣で、紅葉の鐘の音の中で、諸兄のご健勝を祈って来ました。新年の「長野日報」のふるさとへの賀状(1月1日付)の中に、北海道から河西章君や東京から岩波一寛君の「ふるさとを想うたより」あり、うれしくありがたく思いました。(幹事/小松一弘 ☎52-6911)
61		恒例行事：毎年8月9日 納涼会 6時 仙岳 12月23日 忘年会 6時 橋場会館 両会とも毎年35人前後の出席者があり！各自の近況報告等を行っている。また、6月中に広く呼びかけて、ゴルフ親睦会を、地元のゴルフ場で行っている。7、8組(約30名)の参加者がある。(幹事/土橋 勉 ☎72-4840)
62		☆62・63回生有志で行っている辰巳勉強会が、5年目を迎えて17回を数えます。毎回40～50人ほど集まり、その後の懇親も楽しみです。新たな参加者を歓迎します。次回は6月15日の予定です。☆石城君たち「清陵会62・63」のメンバーが、この7月23日よりフィックス艇で4泊5日の琵琶湖周航を計画し実現の運びです。報告会を期待してください。(幹事/濱 弘章)
63		19年6月30日総会終了後、学年会を午後6時から隣の「源湯の宿緑水」(湖岸通り2-6-30 ☎0266-52-3670)で行います。会費6,000円、多数参加してください。(幹事/松木義文 ☎58-1185)
68	けっこう会	還暦を迎えた68回生諸君！久しぶりに集い、語り合おう！同窓会総会終了後、68回生学年会を開催します。還暦を迎えた皆様には、是非ご都合をつけ総会、学年会にご参加下さい。(出欠の連絡不要「けっこう会」と同時開催) ・日時6月30日(土)午後6時30分から・場所「紅蘭」諏訪市湖岸通り5丁目17-7 ☎0266-58-1443 ・会費3,000円(当日徴収) (幹事/伊藤八郎 ☎52-3769)
72	篝火の会	6/30同窓会総会後、学年会(篝火の会総会)を開催予定。詳細は後日、篝火の会ホームページでお知らせ。奮って参加を。昨年は7月豪雨災害調査、メタセコイアの母校植樹、古原正之校長(69回生)招聘講演会、親睦ゴルフなどが行われました。今年は幻の修学旅行第2弾の話が出ています。 篝火の会HP (http://www.geocities.jp/seiryu72/index.html) 掲示板「清陵のお庭」にもお出かけください。(幹事/小泉悦夫 ☎58-2510)
73		昨年の同窓会総会には多くの同年生の皆様にお集まりいただき盛大に催すことができました。ありがとうございました。その勢いが10月20日の東京支部総会にも繋がり、50名もの多くの皆様に参加、2次会ではその後加わった3名が参加し、53名にもなりました。久しぶりに見る顔が多く、旧交を深めることができたことを報告いたします。今後もこのような活動を開いて行きたいと考えていますのでご出席をお願いします。尚、我々も会を進めて行く上で、会に名称を付けたらどうかという意見があり、只今募集しておりますので、何か良い名前がありましたら森までご連絡下さい。e-mail: morisen@extra.ocn.ne.jp (幹事/森 千章 ☎72-2259)
74		一生に一度の定期総会当番幹事。74回生の総力を挙げて成功させよう！ぜひ、全員の参加をお願いします。定期総会後、学年会を開催。(幹事/今井竜五 ☎22-2584)
75		2006年9月2日にディズニーランド近くの浦安ブライトンホテルにて、75回生と76回生の合同同窓会を大島則夫君と井上孝太郎君の取り計らいにより開催しました。参加者は合わせて18人でしたが、ディズニーランドの花火を見ながら楽しく懐かしい夜を過ごしました。 2006年11月3日にはRAKO華乃井ホテルにて、再来年の当番幹事に備え役割分担等の会議を開きましたが、参加者が20名と少なく危惧しております。今年は定期総会のあと開催する予定ですので、多くの参加を期待しております。75回生同窓会事務局 藤原光郎 (幹事/柳平千代 ☎72-8867)
83	祥雲会	私たち83回生、卒業後、5年を目安に、学年会を開催しています。第1回開催の際、会の名称を決めようと幹事会で決定して、開催出欠通知に書き添える形で募集しました。当日選考の結果、「祥雲会」となり、以降私たちの同年会の通知にはこの名前で発送をしています。前回は、東京在住の人たちが中心となって、一昨年夏に新宿で開催しました。いままで諏訪での開催のみでしたから、めったに参加できない人たちも多く来場し、楽しい時間を過ごすことができました。また、在郷のメンバーが、ことあるごとに声を掛け合い、小さな飲み会を開催しております。先般も東京在住の同級生が帰郷したことで、新年会を開催し、メンバーのほか元校長の窪田孝美先生もお招きして、近況や昔話に花が咲きました。今年の同窓会は、74回生の先輩が幹事をされるとのことで、私たちの順番も10年を切ってしまいました。先輩方の要領を参考に1年1年絆を深めていこうと仲間を確認しつつおいしい酒のつまみにしている今日この頃です。(雨宮左京)
92		H18 5/1. 6部同級会12名参加(於：諏訪トウクトック)。H19.1/27. 学年幹事会6名参加(於：東京)。「清陵出でから20年〜♪」まで、あと2年。H21年の卒後20周年に向けて各クラス同級会を企画しましょう。名簿をまとめたクラス代表の方、ご連絡お待ちしています。(幹事/笠原健一 kenkasa@imail.plala.or.jp ☎58-5346)

学年会だより

46回生 (幹事/滝沢 潔 ☎27-7737)

今年もどうやら同期会を開くことが出来ました。同期会報11号も発行することも出来ました。会員の皆さんのお蔭です。今年のテーマは「祈願恩師ご健勝」としました。2人の先生がご健在です。お一人は埋橋朝賢先生担当教科は国語1部担任、現在97才国分寺市にお住まいです。もうお一方は、小林尊志先生教科は歴史、担任は2部長野市三輪にお住まいになっております。今回の同窓会にも両先生から、励ましの言葉と共に過分なるご芳志を頂きました。加えまして出席できない理由も懇切丁寧に書き添えていただき、会員一同感激いたしました。歳も歳なので遠出の旅行は無理からぬことと拝察いたしております。また会報11号にも寄稿して頂き、埋橋先生は「難事業に直面して」と題し、小林先生は「高田121部隊黎明隊にて」と題して、会報に花を添えて貰いました。文章も書かれる文字もしっかりなさっており、まだまだ長生きされることと確信し、会員挙ってご健勝をお祈りいたしております。

さて今年も例年にならって、10月の下旬会員の都合会場の都合を勘案し27日に諏訪の「湖山荘」で行いました。例年のように次第によって、開会の言葉、事務局の経過報告の後、物故者に黙祷。(校歌主題による一鎮魂曲) 今年は

今井 誠君 平成18年3月6日逝去

奥原利夫君 平成18年4月12日逝去

古畑栄三君 平成18年10月18日逝去

続いて懇親会となり、酒肴めぐり宴たけなわとなり、各自の近況報告、若かりし日の思い出話にと、賑わう中、矢張り話題は物故者への話題が多く、仲間は亡くなっても、友達の心の中には何時までも生きている、こんな雰囲気を感じさせる、ほのぼのとした楽しい会でありました。最後に長い校歌を心行くまで合唱し、来年を約して解散しました。

48回生 (幹事/木下芳英 ☎23-5704)

平成18年1月2部同級会が諏訪で、同年3月第14回清陵白樺会が東京で、同年6月1部同級会が諏訪で、同年9月3部同級会が奥蓼科で、平成19年3月第15回清陵白樺会が東京で行われ、旧交を温め合いました。また、清陵白樺会からは、文集「学窓」第6号が発行されました。各会合とも、今年度も開催を予定しておりますので、多数の皆様のご参加をお願いします。なお、今年度から、同窓会48回生学年幹事が内田禮介氏から木下芳英に交代しました。

51回生 (幹事/大堀京一 ☎57-5008)

当51回生の同級会は、年2回、春は諏訪地方で、秋は東京で毎年着実に行っています。

本年の予定は、5月23日(水)諏訪大会として岡谷のパークホテルで、また、東京では11月中旬の開催を予定しています。何れもゴルフコンペ付きです。

また、同年生によるシニアレガッタ(漕艇)遠征も三年前のロンドン(テムズ河)に引き続き、一昨年はボストン(チャールズ川)、昨年は長良川、そして本年は隅田川(8月)を予定しています。

52・55回生 (幹事/千葉春男)

敗戦の混乱が尾をひく昭和27年、学制改革によって我々52回生と55回生が、一緒に清水が丘の学び舎をはなれた。以後「双樹会」の会名で様々な同期会活動を続けている。東京と諏訪には約6割の仲間が在住していることもあり、東京双樹会、諏訪七日会とともに月例会をしっかりと続けている。

全員の集いは総会を含めて年一回。因みに昨年は「06年秋の集い」を実施。各地から50名近い仲間が諏訪に集い、胸襟を開いての語らいはいつまでも続いた。同じ会場で白川太一君の祝賀会を合わせて実施した。これは、白川君の「湖周マラソン連続30回完走」の偉業と輝かしい韋駄天人生を称えたものである。席上、仲間合作の表彰状と横断幕を贈呈、競技記録や寄稿文を載せた記念集を全員に配布。

又、この集いに合わせ、同好の士により11月1日～6日諏訪まるみつ市民ギャラリーで、第一回双樹会美術展を開催。恩師故宮下琢郎、立川義明、牛山之雄各先生を含めた17名が、絵画、彫刻、書、写真など多彩なジャンルから38点を出品。いずれも懸命に取り組んだ気持ちの良い作品ぞろいそして半世紀ぶりの邂逅があるなど会期中会場は熱く盛り上がり、第二回展の実施と再会を誓い合った。

65回生 (幹事/青木成雄 ☎53-0072)

例年、「全体同期会」と「東京同期会」を開催している。今年は「全体同期会」は、6月9日(土)午後6時からベルファイン橋場で開催する。

昼間にはゴルフコンペも開催する予定である。

「東京同期会(東京清陵会65回生の集い)」は、6月2日(土)午後1時から神田シティホテルで開催する。

上記の他にも「八日会」と称して毎月8日に諏訪地区在住の有志(飲べえ)で、当日都合の良いメンバーが集まって飲み会を開催している。会場は上諏訪駅前の「いずみ屋」で固定開催である。

ゴルフコンペは秋(11月頃)にも開催する予定である。

医療法人 順 恵 会 伊 藤 外 科 医 院

院長 伊藤 隆一 (58回)
医学博士

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富7483
TEL 0266-41-3388

不二屋代表取締役 新村 良雄 (四九回)
新 村 隆 (八五回)
下諏訪町四ツ角
TEL (〇二六六) 二七一八五〇五
FAX (〇二六六) 二八一七〇九五

諏訪名産
初霜

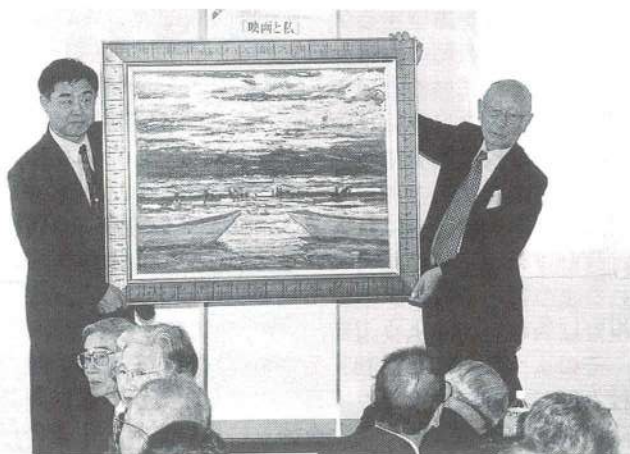
学年会だより

59回生 (事務局/牛山 孝 ☎52-5936)

私達は3年前、平成15年清陵入学50年ということで諏訪に集まり学年会をもった。そのときの約束は3年後にまた会おうだった。今回は昭和31年3月母校を卒業して以来50年を経たこと、数え年では「古希」を迎える年令になったことから、平成18年4月20日「卒業50周年記念会」と銘打って桜花爛漫の諏訪の地で開催された。

当日は、正午から深沢廣先生、高野進先生、故小平恒彦先生の奥様をはじめ74名の参加者により、地蔵寺の篠崎知足住職(同期生)のもとで物故者41名の法要を行った。その後、本校同窓会館に席を移し精進落し(会食)を行った。その席で、現校長の古原先生に出席いただき絵画「諏訪湖旭光」30号を贈呈した。この作品は、同期生で先に女子美大を定年退職した高橋靖夫名誉教授(国画会会員)に制作依頼したものです。制作にあたり元気の出る絵にしたい、校内で生徒に毎日目に触れるところに飾ってほしいとの希望があり、昇降口付近を選んでいただいた。

夜の会までの間マイクロバス2台に分乗し、桜の花満開の母校をスタートし、湖畔公園から下諏訪ポートコース、春宮、御柱木落し坂、湖北トンネルを抜け、岡谷天竜川水門公園、小口太郎の碑の前で琵琶湖周航の歌を歌い、高島城公園に戻る。50年前とはだいぶ変った諏訪を懐かしく見てまわった。夜は、RAKO華乃井ホテルにて、91名の参加のもと「記念総会・懇親会」を行った。久し振りの再開に旧交を暖めると共に、古希を迎え達者で長生きし「また会う日まで」を合言葉に、元気よく清陵校歌を歌い散会した。



66回生 碌々会 (昭35年入学。会長 水岸一洋君)

入学した昭和35年は、入学早々の学友会館の火災で幕を開けた、60年安保で騒然とした時代でした。6月25日、国会で樺美智子さんが亡くなったのを受け、その日の談論会

直後、市中行進に正に出ようとする生徒を天文台の石垣に登った先生方が必死になって押しとどめるあのシーンは、思えば先生と生徒との間の熱い思いの凝縮した一瞬でした。それも遠い昔話になった平成16年、我々66回生が還暦を迎えた記念に学年会をきちんとしようという機運が生まれ、9月11日親湯で学年会が開かれた。会長には水岸一洋君、会の名前を66回に因み碌でもないので集まる会ということで「碌々会」と名づけた。平成17年秋、辰野パークホテルで懇親会を開催。この時は辰野町長矢ヶ崎先輩(64回)の許可をえて巨大なファイヤーストームに興じました。遠く台湾からの参加者もいました。辰野の勅使川原君が松茸山を所有しており、彼の御好意により平成18年秋、松茸狩り会を行いました。会費はタダ。キノコ鍋あり、酒は飲み放題、採った松茸は持って帰れるという太っ腹な勅使川原君の発案に20名以上の会員が集まったが、この日の松茸の収穫はわずかに3本。しかし、この日に参加出来なかった連中から、何としてももう1回やってくれとの虫のよい懇願に、勅使川原君が再度度量の大きな処を見せて、第2回を開催しました。素人はどうせ採れないだろうという彼の甘い予想を裏切って、その日の収穫は大小あわせてなんと30本以上！その時の松茸で作った松茸酒を今年の一月東京で開催された65回と66回合同の東京清陵会に寄贈しました。昨年に味をしめ、今年の10月20日、21日には「碌々会松茸狩り大懇親会」を開催します。再び勅使川原君のご好意に甘えますが、なんせ自然が相手ですから、果たして今年の収穫や如何。碌々会の多数の皆さんの参加お待ちします。

会の規約に「年金と病気の話はご法度」というのがあります。66回碌々会、入学275名中すでに物故者34名を数えます。亡くなった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、生きてこの世にある我々は、彼らを忘れることなく、精一杯生き抜きたいと思います。(久保田高正)



芙蓉産業株式会社

代表取締役 鈴木 健一 (74回)

諏訪市大字中洲566番地3
TEL 0266-58-1125

不動産についてのご相談承ります。

諏訪不動産株式会社

会長 矢崎 碩一 (36回)

社長 矢崎 智義 (74回)

〒391-0002 茅野市塚原1-7-6
電話 0266-72-6525

学年会だより

77回生 (幹事/長田光正 ☎ 41-0172)

我が77回生は、満50歳を期に再会を果たすこととなり、毎年1月3日をその日と定めて、諏訪の地に集まることとなりました。(予定では、2~3年毎です) 前回も成田屋にて旧交を温めながら、恩師、同級生を中心に誠に楽しいひとときを過ごす事が出来ました。当番学年を見越して各クラスの連絡担当員を決定し、これからの学年会の活動をより円滑に、より楽しく実施できるようにいろいろと工夫して参りたいと考えております。いつも感じるのですが、清陵を去って何十年もたつのに、あの頃の連中と再会すると瞬間に現役時代に戻ってしまうのが本当に不思議です。



80回生 竹村文彦君のこと (松崎 寛)

わたしたち80回生は、それぞれの小グループでは懇親を深めているようですが、全体を横断する統一的な集まりはなく(呼びかけても誰も集まらない)、わたしがもっている同年生の情報も、ごく限られているのが実情です。そういう中で今日は、今でも多少の交友を保っている、竹村文彦君のことを紹介しましょう。

竹村君は、7部に属していて、3部だったわたしとはクラスが違いましたが、授業のクラスは一緒でした。高校時代の彼で覚えているのは、授業中に結構しどけない姿で、居眠りをしていたことです。が、英語だけは(竹村君失礼)滅法できて、学年でも有名でした。

そんな彼は、当時でも珍しくらいに「すれて」いない、明るく素直な性格で、機会はそう多くなかったものの、親しく語り合った覚えがあります。受験の折には、わたしと同じ慶応の法学部を受験し、彼が二次の面接で将来は外交官になりたいと答えたところ、当時外交官等に対するテロが横行していたため、「殺されたらどうするの」と試験官に揶揄されたと言っていたのを思い出します。

その慶応にめでたく合格した彼は、当然に外交官を目指して入学するものとはばかり思っていました、さにあらず、彼が入学したのは、東京外語大のスペイン語科でした。慶応の合格発表の後、外語大に合格していたのです。

外語大入学後は連絡をとることもなくなり、彼がNHKの音楽番組でフルートを吹いているという噂を聞いたくらいでした。音楽が好きだった彼は、外語大でもオーケストラに所属していたのです。

ではご多分に漏れず彼もサークル活動にうつつを抜き、キャンパスの青春を謳歌していたのかと思いきや、さにあらず、彼は本業である勉強にも十分打ち込んでいたのです。師事した教授の厳しい指導に耐え、スペイン語を完全にマスターし、マドリード大学にも2年間留学、帰国後しばらく南山大学で教鞭をとっていましたが、90年に今の東京大学に移りました。現在、東大総合文化研究科助教授です。

専門は、ラテンアメリカ及びスペインの文学。現在は、ルベン・ダリーオを中心とするラテンアメリカ・モデルニスモ期の文学と、フランシスコ・デ・ケベートを始めとするスペイン・バロック期の文学を並行的に研究テーマとしているそうです。今までに、オクタビオ・パスなどの三冊の翻訳書を刊行しています。

このように結局彼は研究者となったわけですが、外交官になるのと、どちらがよかったでしょうか。少なくとも外交官よりは、殺される危険性は少ないでしょうし、まだ記憶に新しいあの外務省の珍騒動にも巻き込まれなかったのは、賢明な選択だったといえるかもしれません。

垢抜けてスマートな彼は、おそらく女性にももてたに違いありません。しかし大学以来研究一筋だった彼は、長く独身を通してきましたが、3年ほど前、45歳にして、めでたく結婚しました。お相手は、ロシアの言語論を専門とする研究者だそうです。今彼は、東京の世田谷に購入した家で、新妻の恵里子さんと、仲睦まじく暮らしています。

99回生

先日、お恥ずかしい話ながら、卒業して初めて同窓会に出席させて頂きました。その中で最近地元の学生が諏訪地区以外の高校を志望するケースが増えてきた、との話を聞きました。学区制の大幅な緩和により、松本地区や山梨県へ学生が流れているとのこと。確かに子供達の選択肢が広がったこと自体は良いことだと思いますが、それにより我らの母校である清陵が選択肢に入らないというのは寂しさを覚えます。

流出の原因は、やはり大学への進学率や勉強する環境がどれだけ整っているか、というところにあると考えられているようで、清陵もSSHの指定を受け、中高一貫校化をも視野に入れているようです。

そのような対応を批判するつもりは無いですが、他の学校と同じ方向に進むだけで良いのでしょうか。私は諏訪清陵高校の卒業生であることを誇りに思います。生徒の自主性に任された生徒会・部活動をはじめとする学校生活、文武両道の精神、日本一長い校歌、地方会(あまり良い印象を受けない方もいらっしゃると思いますが)等々、他にはない自慢が沢山あります。そんな清陵で過ごした3年間というものの下の世代に伝えていくのが我々卒業生の役割であると思います。どんな環境でも勉強は出来ますが、貴重な3年間を清陵で過ごすことの素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいものです。

99回生も今年30歳になります。いつの間にか子供から大人へなり、もうお父さん、お母さんになっている方もいらっしゃるかもしれません。機会があれば同窓会でお会いし、色々なことについてお話したいですね。

荒木 健太郎 k_arakki@jcom.home.ne.jp

110周年記念同窓会会員名簿訂正のお願い

名簿発刊後、下記の方からデータの変更要請がありましたので、お手持ちの名簿の訂正をお願いします。

64回生 小泉親秀

[氏名] 平出親秀 [旧姓] 小泉 [〒] 399-0101

[住所] 諏訪郡富士見町境1048 [電話] 0266-65-3510

寄稿

村上深君の史上最年少
アマチュア本因坊獲得を祝す

諏訪中央病院内科診療部長 原田和郎(73回生)

昨年8月、村上深君(107回生)が、史上最年少で囲碁のアマチュア最高峰である本因坊を獲得されました。心よりお祝い申し上げます。

思いおこせば、昭和43年、同期の鳥羽研二君(現杏林大学医学部教授)が中心となり清陵に囲碁同好会が結成されました。翌年、私と宮坂博之君、74回生の金子辰夫君、五味克成君のメンバーで全国高校囲碁選手権に初参加して、団体戦で準々決勝まで進むことが出来ました。今、思えば、快挙だったのですが、まだ囲碁は、一般には普及しておらず、校内に賞状が飾られても、何のことかわからない人が、ほとんどでした。それから37年、清陵同窓生がアマチュアの頂点を極められたことは、真に感慨深いものがあります。

村上君はまた、今年3月に開催された世界学生王座戦において、韓国、中国等の並み居る強豪を相手に見事準優勝されました。今後、一層研鑽を積まれて、アマチュア世界一を極め、更にもう一度、専門棋士を目指し、囲碁界の世界の頂点に立たれることを念願しております。

小池康博君、紫綬褒章を受章！

朝倉 義信(76回生)

元気な同窓生を紹介させていただきます。昨年11月3日、76回生の小池康博君(慶応義塾大学理工学部物理情報工学科教授)が、紫綬褒章を受章されました。紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術分野で顕著な功績をあげた人に国から贈られる栄典の記章です。

小池君は、清陵を卒業と同時に慶応大学に進み、応用化学を専攻され、82年に同大学院博士課程を修了し、助手、専任講師、助教授を経て、97年から同大学の教授を務めております。

光は透明な物質の中では減衰せずに進みますが、物質の中に不純物があればあるほど減衰し、長距離に渡って光信号を伝達することができません。特にプラスチックはガラスに比べて不純物が多く、多くの研究者は透明度を上げるための不純物除去に取り組んでいました。

82年に初めて不純物を味方に変えた屈折分布型プラスチ

ック光ファイバー(以下GI-POF)を学会で発表した時、従来の提案と逆のことを提案したわけですので、ガラスの光ファイバー(以下GOF)やPOFの研究者からは「非常識だ!」と、冷ややかな反応だけを受け、相手にされなく、その後も決して研究開発が順調に進んだのではなく、多くの挫折を味わったと聞いています。

その時の彼を支えたのが自分の理論を信じ、清陵時代に何度も口にし、また、脳裏に強く焼き付いていた「自反而縮雖千萬人吾往矣」であり、誘われて留学した米国のベル研究所での徹底した基礎研究でした。「不純物をなくし、透明度を追求するのではなく、ファイバーの中の不純物が光の波長より小さければ問題なく、POFの中に混入させた不純物で中心部の屈折率を高く、周辺部へいくに従って屈折率を小さくするよう屈折率を分布させることによって従来のプラスチックと違い、POFに入射した波形がPOFを出射した時にも変わらず、また、光が減衰されないで進むはずだ。」という理論の実現化に努力してきたわけです。これにより、POFの中心部を直進する光の速度に対して周辺部で反射しながら長い光路を進む光は加速され、結果的に同じ速さで到達するようにコントロールされるわけです。

GI-POFは、低コストで扱いやすく、GOFより約100倍も太いことから結合しやすく作業性が良く、又GOFよりも信号波形が崩れません。これから訪れる高速大容量光通信時代のキーとなる光ケーブルが実現したわけです。

受章はされましたが、もちろん、彼の発明・研究意欲は衰えていません。まだまだ世の中を驚かせ、より住みやすい社会へ貢献する意欲旺盛です。

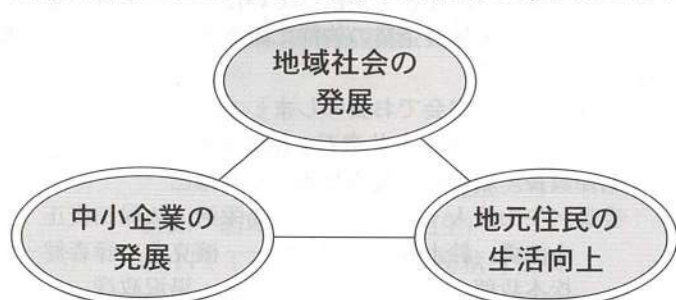
ー追伸 76回生のみなさんへー

2年後は、76回生が同窓会の幹事となります。昨年のお盆には、3部から6部までの合同の同級会を行うことができ、懐かしい面々が集いました。2年後に向けてこの輪をさらに広げていって欲しいと思います。ご協力をよろしくお願い致します。



「この街と生きていく。」

諏訪信用金庫は常に地域の活性化を図ることを真剣に考えています。



諏訪地域に本店を有する金融機関

諏訪信用金庫

<http://www.suwashinkin.co.jp>

会長 宮坂 久臣(49回)

理事長 花岡 矩好(68回)

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(平成19年4月28日までにご連絡をいただいた方々)

お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生
有賀 博	2006.2.20	26	郵沢 文哉	2005.1.22	39	河合 正男	2007.1.2	45	雨宮 英夫	2006.4.19	55
北澤亜細亜	2006.12.29	26	米倉 積男	2006.3.18	39	瀧澤 公義	2006.2.21	45	日達 稔	2006.5.8	55
中村 文武	2006.7.17	26	上原 芳直	2005.12.2	40	樋口 好男	2006.7.12	45	春日 朝雄	2006.9.29	56
百瀬 利夫	2006.10.22	30	笠原 二郎	2006.10.4	40	今井 誠	2006.3.6	46	中澤 修	2006.6.15	56
茅野 松夫	2006.8.6	33	小島 信	2006.8.25	40	牛山 益夫	2006.11.26	46	丸山 哲司	2006.9.27	56
伊藤 寅視	2006.11.4	34	松澤 宥	2006.10.15	40	奥原 利夫	2006.4.12	46	小口 章夫	2006.9.9	57
渋谷 利男	2006.6.5	34	小島 馨	2006.6.22	41	古畑 榮三	2006.10.17	46	河西 保美	2007.3.20	57
矢島 敏晴	2006.8.19	34	野口 甫	2007.1.17	41	大草 直也	2006.2.10	47	味澤 正	2006.10.28	58
牛山 悦男	2005.12.30	35	金子 崑	2006.8.26	42	小林 昭一	2006.8.11	47	若松 厚宏	2006.10.8	59
伊藤 治夫	2006.6.8	36	武井 清水	2006.4.30	42	小河原竜太郎	2006.12.20	49	笠原 裕昭	2006.4.3	60
岩本 深志	2006.8.30	36	増澤喜一郎	2005.12.12	42	寺沢 章二	2006.7.1	49	名取 啓介	2006.2.28	60
小口 禎三	2006.11.11	36	薩摩林武美	2006.5.18	43	五味 立自	2006.8.8	50	保科 公郎	2006.3.29	63
長田 利夫	2007.2.28	36	中村 文彌	2006.6.4	43	茅野 淑朗	2006.6.18	50	山寺 勇一	2006.4.30	63
中根 幹夫	2006.8.3	37	中山 哲夫	2006.10.28	43	濱 廣 匡	2006.12.27	50	植松 四朗	2006.3.20	64
三井 閑	2006.11.7	38	石井 幸一	2006.6.25	44	水口 芳和	1999.8.8	50	竹松 昭男	2007.1.29	65
本山 喜久	2006.1.1	38	金子 雄輔	2006.2.1	44	飯田 榮作	2006.7.2	51	北原 町	2006.10.5	71
小松 恒安	2006.10.13	39	梅垣 昭一	2006.11.20	45	武井伝太郎	2005.12.1	51	吉沢 和之	2006.6.1	74
林 悦造	2006.1.3	39	勝山 孝一	2006.9.17	45	米澤 朝宗	2006.8.17	52	田中 富久	2006.10.11	75

事務局だより

◆4月4日は母校入学式にて新入生(新会員)138名(内女子104名)を迎え、母校創立112周年目の年度が発足しました。例年のように入学(と同時に同窓会への入会)の記念として、会長のメッセージを添え「校歌CD」とビデオ「清水ヶ丘にうたう」を贈りました。

◆平成18年度中の清陵OB文庫へ寄贈頂いた図書等下記通り。有難うございました。なお、上梓なされました節は、同窓会OB文庫へご恵贈頂けますれば幸甚です。

- ・伊藤岩廣(47回)著『セイコーエプソン物語』
- ・片野 満(56回)著『小説・二之丸一件始末 善を長じて…』
- ・諏訪市教育委員会編『諏訪市文化財ガイドブック
—四賀・中洲 編—』

- ・小林一美(59回)著『わが心の家郷 わが心の旅』
- ・北原文雄(38回)著『学徒兵 北原道雄と沖縄戦』(増補版)
- ・鈴木保男(58回)著『若き「藤村研究家」とその遺産・他』

◆第44回生(諏訪志士会・学年幹事 山岸 淳氏)が、皆様ご高齢になられて平成18年末を以って学年会を解散なされました。その折、学年の貴重な積立金から23万円を同窓会に寄附して下さいました。第44回生のご好意に感謝申し上げますと共に今後共益々のご健勝を祈念申し上げます。

◆昭和50年、母校創立80周年を期に設立された「財団法人諏訪清陵会」は、同窓会からの財政的援助のもと母校の教育活動を支援してきています。平成20年には、公益法人に関わる新たな法の施行が予定され、それに向けて寄附行為の見直し(評議員会の設置・会計処理の方式・その他)など行ってきました。従来よりも「公益」性が求められ、設立当初の「母校の教育活動支援」のみでは財団の存続が心配の感もあります。これからの母校の発展を、例えば、諏訪地域全体の教育面での発展と併せて考えねばならぬ時代かとも思います。

◆この度、地蔵寺の本道が老朽化のため改築の運びとなりました。今年も4月18日に恒例の慰霊法要を執り行いましたが、その折の篠崎ご住職(59回)の話では「本堂が何故か

諏訪二葉高校の方に傾いている！」とのこと。この際、母校と地蔵寺そして道志社碑との長年に亘る深い関わりについて、『清陵同窓会報』第24号(特集の項)及び第26号(事務局だより)を紐解いてみては如何でしょうか。

◆19年度同窓会係・事務局

- ・学校同窓会係：笠原敏彦(主任・83回) 原 護(66回)
平林義男(73回) 武居美博(77回) 濱恒弘(78回)
井口智長(88回) 細野勇治(学校事務長)
- ・事務局：武居浩明(56回、月と金に出勤)
TEL 0266-58-0356 FAX 0266-57-0348
E-mail dousoukai@suwaseiryo.jp
ホームページ <http://www.suwaseiryo.jp/>

編集後記

産みの苦しみを経て、会報33号の新しい命がここに誕生しました。大変な半年間でしたが、今日の日を迎えることができ、感無量です。1万7千の同窓生の皆様に、母校の息吹を伝え、連帯感を呼び起こし、新たな生き方につながるきっかけになれば幸いです。編集委員にとっても、共同作業を通し同年生の絆を深める得がたい機会になりました。

会報作成に快くご協力いただいた先生方、同窓の先輩の皆様、事務局、発送を手伝っていただいた清陵1年生の皆さん、そして協賛企業の皆様に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

ぜひ、定期総会でお会いしましょう！

74回生学年幹事／今井竜五 編集委員長／岩波豊明
副委員長／岩垂修 矢崎智義 長崎繁巳
委員／牛山澄人 内山省三 上島栄治 久保田俊正
小池勇 鈴木健一 仲本権一 濱克典 藤森健一
松本哲郎 武藤一博 邑口正人 湯沢政彦